



No.428

発行 社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)
〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4
TEL・052-731-0780
FAX・052-732-5298
E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp
<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2009 3-4 月号

【トピックス】

先輩から新入生へのアドバイス

【ごきそホットライン】

表彰者紹介

課外活動活性化経費の授与

奨学金の授与

【交流コーナー】

依佐美長波無線送信所(刈谷)物語

【紀行】

チェコに魅せられて(その2)

【学生コーナー】

辛酸苦楽の毎日

私の故郷、中国南京

【クラブ紹介】

NITMicの活動

自己ベスト更新を! ゴルフ部

【学内ニュース】

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース

パズル



平成21年度 (社)名古屋工業会第43回通常総会ご案内

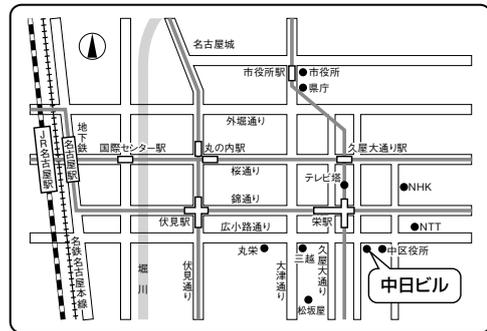
と き 平成21年5月23日(土) 14:00～
と ころ 中日パレス
〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル5F
TEL 052-261-8851

総 会 14:00～15:30 クラウンホール
特別講演 15:40～16:40 ”
パーティー 17:00～19:00 エンゼル
パーティー会費 6,000円 (当日受付へお支払いください)

議 事
第1号議案 平成20年度事業報告及び決算報告
第2号議案 平成21年度事業計画及び予算案
第3号議案 役員の変更
第4号議案 その他

行 事
イ. 叙位叙勲等表彰者に記念品贈呈
ロ. 母校退職教職員への感謝状と記念品贈呈
ハ. 卒業満70年(S14年)、60年(S24年)、50年(S34年)の正会員への記念品贈呈
(総会出席者及び委任状提出者に限る)

ニ. 特別講演 講師：トヨタ自動車(株) 常務役員
横山 裕行氏 (K49)
演題：「お客様第一の真の実現を目指して」



上記ハ. の卒業年次該当の方は、特に旧交を温められる好機でもありますから、正会員でない同窓の方も是非お誘いの上、打揃って出席くださって喜びを分かち合ってください。

なお、ハ. の卒業該当の方へは、特にご案内状を差し上げませんので、本誌に挟み込みの「通信ハガキ」にてご出席の有無をお知らせください。また、正会員の方でご欠席の場合は、お手数ですが、挟み込みの委任状にご記名ご捺印の上、是非ご送付の程特にご協力をくださいますよう、お願い申し上げます。

名古屋工業会定例評議員会ご案内

と き 平成21年5月23日(土) 12:30～
場 所 中日パレス コスモス

表紙写真説明

「20号館前の桜と6号館」

昨年の桜です。右に写る20号館は改修して今は新しい装いになりました。桜は変わらず花を咲かしてくれることと思います。

撮影者 黒柳 奨 (EJ③)

トピックス

先輩から新入生へのアドバイス

新入生の諸君をむかえて

社団法人名古屋工業会
理事長 篠田 陽史 (M33)

入学おめでとうございます。心を弾ませ大学の門をくぐり、運動部や文化部の入部勧誘の声を聞きながら、講堂はどこだと思廻している新入学の諸君を、いま原稿を書きながら思い浮かべています。これは55年前の思い出を今に置き換えていますので、少しは違っているかもしれません。

ここでは新入生の諸君に先輩として、激励文を書く機会を得ましたので、どうしても伝えたい事を述べたいと思います。それは大学への帰属意識すなわちアイデンティティについてです。

私達が入学したときは国立大学で、かつ二期校でした。目的とする一期校では無かったとすると、どうしても帰属意識は少なくなります。私の場合、一期校は法学部志望でしたので、入学した当時は大学への強いアイデンティティは持っていませんでした。しかし会社に入り、仕事の中身が高度となり、また企業内での競争が激しくなるにつれ、同級生や先輩との交流、知識の交換が重要になってきました。そんな時名工大で本当によかったと感ずることが多々ありました。そんな中でアイデンティティが養われていった気がします。私の場合は体育会ヨット部に入っていたことも大きな要因です。

諸君は今どうですか。私達のもう一世代前は違います。初めからこの学校での勉学の意気に燃えて入学され、そして帰属意識を生涯持ち続けておられます。

大学の益々の隆盛を願って、トヨタ自動車副社長でトヨタ生産方式を作りあげた大野耐一先輩は大学へ1億円の遺贈をされ、奥様からも同じく1億円を遺贈されました。

この度の大学創立100周年記念募金では青山哲也先輩 (E23) も1億円を寄贈いただいています。100周年記念募金は同窓生、及び企業からのものもすべて含めると約15億円になります。



今感じますことは、私達は6万人の卒業生の知識、経験、実績の海と社会貢献の船の上にいるとの思いです。

いま大学は国立大学から国立大学法人に変わりました。法人の二字が入っただけですが、今までとはまったく違います。大学は自分で生きてゆく事を要求されています。母校が衰退してゆく、世の中から忘れられてゆくことがあってはなりません。

新入生の諸君、在校生、卒業生、そして教職員が一丸となって大学を盛り立ててゆくことが一層求められ、その為にも名古屋工業大学に対するアイデンティティの高揚を新入生の諸君に強く求めます。

同窓会組織である(社)名古屋工業会も変革に取り組んでいます。この中の大きなテーマが大学振興でありその基盤となるのが全会員のアイデンティティの高揚と考えています。

いま世の中は100年に一度と言われる世界不況が押し寄せ、毎日、マスコミはこの話題でもちきりです。この中であって名古屋工業大学に帰属できた誇りと喜びを嚙締め、これら社会情勢に振り回されることなく、実りある大学生活を送られることを期待します。

トピックス

先輩から新入生へのアドバイス

新入生への激励

国立大学法人名古屋工業大学
学長 松井信行 (E41, 修士43)

2009年4月、百年余の名古屋工業大学の歴史の中で巣立って行った先輩諸氏に続く工学者の新たな精鋭として入学された皆様に、心からお祝いを申し上げたいと思います。私自身も名古屋工業大学の卒業生で、皆さんの先輩になります。皆様の前に広がる新しい世界に、大きな期待を寄せております。

この大学で、皆さんは自分が思っている以上に大きく変わることが出来ます。皆さんの先輩の実績がそれを物語っています。世界に冠たるトヨタ生産方式を作り上げた大野耐一先輩（名工大百周年記念事業として日本経済新聞社から出版した“大野耐一 工人たちの武士道”、著者名工大教授若山滋に詳しい）をはじめ、数多くの産業界の大物が居られます。現職の社長、会長さんも産業界で大活躍、また、名工大はもとより、国立大学法人や私立大学の現職の教授として、あるいは国の研究機関や民間の研究所で研究員として、学問の世界で名を挙げておられる方々も枚挙に暇がありません。さらに、工業大学としては大変珍しいことですが、現職の国会議員が3名、市長など地方自治体でご活躍の方々も含めて政界や行政の世界でも多くの先輩が活躍されています。産業界、学界、政界にとどまらず、実に多彩な先輩諸氏が活躍しています。推理作家の太田忠司氏、漫画家の鬼頭莫宏氏、さらには芸能界でギタリストでありシンガーソングライターとして活躍中のkenさんも皆さんの先輩です。

みんな新入生の頃はあなたたちと一緒に、この名工大のキャンパスで、将来への期待といくばくかの不安の交錯する中で、学生生活を送りました。かく言う私自身もこの大学に入学した頃は、将来、電気鉄道に関した仕事をしたいという漠然とした思いはありましたが、特別のことをしたわけでもなく、試験の前にあわてて仲間と一緒に勉強し、休みに入ると、級友と工場で働いて得たわずかなお金でテントとリュックを担いで日本の岬の突端を歩いて回ってくる貧

乏旅行を楽しんでいました。その自分が、まさか将来博士号を持つ身になるとは、専門書を世に出すことになるとは、アメリカやヨーロッパの学会でたくさんの外国の仲間と共に仕事することになるとは、思ってもいませんでした。一緒に岬を歩き回った仲間も、電気メーカの役員や大学教授になりました。



社団法人名古屋工業会は、名工大の卒業生の同窓会です。実社会で活躍する卒業生が、この同窓会を通じて、所属している業界や業種の壁を越え、年代の壁を超えてお互いに連絡を取り合い、自分自身の仕事の幅を広め、仕事の質を上げることに大きく貢献しています。また、趣味の世界で、卒業した学科や専攻を超えた人のつながりの中で、心豊かな人間関係を作り上げています。全国に居る卒業生を支援するために、各地に支部を設けています。さらに、名工大で学んだ留学生を支援するために、外国の地に海外同窓会を作り、留学生だけではなく日本企業から派遣されて現地で働く卒業生と共に業務の支援を行っています。

皆さんは今まで同じ年代の仲間と共に生活してきましたが、名古屋工業大学の学生になったこれからは、同窓会組織としての名古屋工業会と共に、年代を超え、現役学生、卒業生の壁を越え、貪欲に多くを吸収して大きく成長して欲しいと思います。このような諸先輩の実社会での長年にわたる実績と、先輩を通じてのリクルート活動のおかげで、景気の変動にはあまり影響を受けずに就職倍率は10倍を優に超える高率を維持しています。皆さんには眼前の社会現象に振り回されることなく、落ち着いた実りある学生生活を送って欲しいと思います。

トピックス

先輩から新入生へのアドバイス

名工大の学生よ大志を抱け！

株式会社TYK
代表取締役会長 牛込 進 (Y33)
前理事長

産業界において名工大の評価は高く、就職活動も順調であります。私は、それに甘んじてはいけないと思っております。

私達の学生時代と比べますと数段、設備・実験施設等も充実しており、学問をすすめる上において、環境は整っております。その中において、いかに充実した学生生活を送るかということは当然のことながら本人次第であります。学生の皆さんにまず申し上げたいことは、「人生は一回しかありません。」人生を振り返った時に満足できる人生であったかどうかは本人の努力によるものであります。大学に入学することは目的ではなく人生の最終目的を達成するための手段であります。幸いにして皆さん方は名工大に入学できたということは、とりあえず登竜門に入ることができたということであり、名工大の卒業生は企業において、課長職くらいまでは間に合うがなかなか上層管理職につくことは難しいと言われております。それはどうしてでしょうか。私の会社にも大勢名工大卒がいますが、概して企業内外の人との付き合いが不得手な人が多くしたがって視野が狭くなりがちであります。積極的に異分野の人とも接触し、また人生の成功者の方々に接触することが大切だと思えます。視野の広さというのはなかなか自分では分からないことであり、一段上、さらに一段上と上っていくにつれて少しずつ分かってくるものであります。

また国際化抜きに企業の発展はありえない時代に、すすんで海外の駐在なり、海外の仕事を経験することを申しでることです。大体工学部の学生は、語学が得意でない方が多いと思えますが、これは生まれつきのものでなく、一生懸



命努力しなかった結果であり、今からでも遅くはないので、積極的に勉強することが大切です。

名工大は日本の産業の中心に位置しております。これだけ集積度の高い地域は世界にもありません。その意味において、さらにさらに世界的なプレゼンスを持ってもらいたいと思っております。私はアメリカのMITを抜き、世界のNITになってもらうことを心から願っております。恵まれた環境の中で名工大の先生方、そして学生がそのような志を持って勉強研究に励んで頂きたいと思っております。

名工大の卒業生は素晴らしいと言われてもらえるようになるには皆様方の自覚次第です。

私は名工大のカリキュラムの中に経営学を設けるべきだと思っております。またできるだけ早くMBAスクールを作って頂きたいと思っております。そして世界中の優秀な学生が集まりお互いに切磋琢磨することによって、学究の質を高める事ができると思えます。皆様のご健闘を祈念しております。

トピックス

先輩から新入生へのアドバイス

工科系の学生は
ハード面とソフト面の勉強を！

鳥取大学名誉教授 林 農 (M45)

世界中が期待するアメリカ第44代大統領 Barack Obama氏の大統領就任式をテレビで見ながら、時代の流れの速さをつくづくと思知らされています。あの奴隷制度から始まった黒人差別の国・アメリカから遂に黒人の大統領が誕生したのです。正に自由の国、競争の国、実力の国アメリカであり、アメリカンドリームの実現です。このObama政権がグリーン・ニューディール政策を掲げました。自然エネルギーである風力発電、太陽光発電、バイオマスを利用して新たな雇用を創出するだけでなく、成長への新たな基盤を築くためであると言います。これには日本の政権も追随するに違いないけれども、豊富に賦存する石油を温存したままグリーンエネルギーを普及させようとするアメリカと、エネルギー資源の96%を輸入に頼る日本では状況は全く異なるので、政策の根本は真似でなく日本独自の考えで推し進めるべきなのです。

7・8年前、私の研究室にケニヤッタ農工大学の講師であるMagoha氏が、日本の国費派遣研究員として6か月滞在したことがありました。彼は研究にはあまり熱心ではなかったけれども、パーティや懇親会でのスピーチはやたら旨いのに感心しました。ケニヤッタ工科大学と国際交流を結んでいる鳥取大学には多くのケニア人が滞在しましたが、それらの多くの教官は皆演説が上手でした。また、Magoha氏の奥方は留学中に知り合ったロシア人で、いわゆる白人でした。ケニア人の血を受け継ぐObama氏が演説の巧さで群を抜き、白人中心のアメリカで臆することなく能力を発揮して大統領に就任したことは、その民族の世界に通ずる特質と言うべきかも知れません。私達日本人も大に見習うべき点です。

さて、名工大に入学した学生諸君に期待する

ことは、まず専門家として活躍できる社会人になるための基礎を築くための勉強です。太陽光発電の変換効率向上の研究や風力発電のブレードの改良など、従来型のハードについての勉強が第一です。しかし、21世紀に育つ学生はそれだけでは十分とは言えません。工学系の学生・社会人にも国家戦略や環境保護などの社会政策の勉強が必要なのです。

アメリカのグリーン・ニューディール政策によって、環境産業に強みを持つ日本の産業界も活気つくはずですが、政策にしても産業振興にしても、21世紀の環境・エネルギーに関する推進には、正しい科学技術に立脚した主張が求められます。例えば、私が副会長をしている日本風力エネルギー協会では、風力発電の増設を強く訴えています。景観やバードストライクの妄想とも思える被害意識から遅々として進みません。初期には環境に優しく地球温暖化防止の観点から風力発電が促進されましたが、今や石油ピークの観点から、すなわち環境制約よりも資源制約から、風力発電の増設が必要になって来ているのです。現代文明は石油から成り立っていることを知る必要があります。例えば、農業も石油漬けなのです。野菜を運搬するトラックはガソリンで動き、農薬や化学肥料の生産には多くの電力を消費し、温室栽培には当然石油が使われています。石油ピークを迎えた今、脱石油、脱浪費を語り、どの種類のエネルギーが優先的に利用されるべきかを検討する必要があります。このことは、私が理事の一人である“もったいない学会”（会長：石井吉徳東大名誉教授、元国立環境研究所長）のホームページ (<http://www.Mottainaisociety.Org/index.html>) に掲載されています。このようなソフト面の勉強もこれから育つ工科系の学生諸君には必要な学習だと私は考えています。

トピックス

先輩から新入生へのアドバイス

後輩へ…随想

東邦瓦斯株式会社 取締役 常務執行役員
辻 秀武 (M50)

「学生時代」…どこか哀愁を秘めた、いい響きの言葉に感じられる年齢になってしまい、人生の哀愁をも感じている私がここにあります。以下申し述べる事柄のちょっと皮肉っぽいかな?と思われる部分は、この年輪によるところとご容赦願います。

この「学生時代」を大いに満喫している学生諸君は、生まれてこの方、授業料を納めて「知識」を受けもらう生活が続いていると思います。この期間は、家を建てる場面と言うとこれは「金づち」というものでこうやって「釘」を打つのに使います。これは「かな」という名前で木をこうして削る時に使います…将来、家を建てるのに使う基本的な道具の名前とおおよその使い方を、それぞれの専門分野の名のもとに「知識」として丁寧に教えてもらっている時期だと思っています。この「知識」は真摯に授業を受け学んでいけば、それなりに頭にしっかり詰め込むこと、詰め込めた気になることができるものです。

試験も問題が与えられ、それに教わったことを教わったとおりに記載すれば成績は「優」となり、優秀な学生ということになります。

これが卒業後、社会人となると一変して逆に給料をもらうわけですから、それに見合った成果を出さなければならない状況に突入することとなります。

先ほどの家を建てる場面と言うと、どんな家?…具体的な成果を見せなくてはなりません。どう建てるのか、そこにどんな問題があるのか、前例がなく自らが考え、問題すら自分で見つけ解決し、先へすすまなくてはならない状況です。どんな家(目標)に到達するには、今まで授かった「知識」だけでは到底太刀打ちできません。そこでは、与えられた時間軸のなかで経済性などを考慮して、どんな形のものを作るのか?「知識」をどう組み合わせ活用したら、目指す形ができるのか?「知識」(道具)を使いこなす「知恵」(創造力)が必要な能力になってきます。

さらにスケールの大きな成果を求められると、個人力から組織の力が必要となり、この場面では年齢、性格、価値観、専門が違う多くの人達の知識、知恵を有機的に結びつけなければ、この大きな目標には到達できません。その為には、知識・知恵に加えて、組織の中で自分の力を発揮するための協調性や組織を引っ張っていくリーダーシップなどといっ

た能力も必要となるでしょう。この能力は、人生のなかで多くの時間を、同じ年齢や同じ価値観、同じ専門分野の人たちの中で過ごしてきた人には希薄かもしれません。

また、知恵を含むこれらの能力は、学校の授業で教え授けることが難しい能力であると思います。自分が悩み、求め、気づいて初めて身についてくる能力であり、先輩、同僚、後輩など縦軸での人との交わり、本を読むことによる著者との交わり、さらには求めれば、動物・植物など自然界からでも多くを学び取ることができる能力でもあります。難しく考えすぎず、案外、遊びのなかから知らず知らず身に付くものかも知れません。

「よく学び、よく遊べ」とはよく言ったもので、学びから知識を、遊びから知恵などを習得せよと先達が教えてくれているものかも知れません。

一方で、学生諸君が卒業後の長い人生を、以上述べました知識と知恵などを活かして社会貢献をし、楽しく生き生きと過ごしていく為には、肉体的、精神的に健康であることが必要条件であることはいうまでもありません。最近では、精神的に健康であること、メンタルヘルスが重要視されてきています。この必要条件の獲得の可能性を高めるには、学生時代に生涯付き合えるスポーツと友達をつくり上げておくことが大きな武器になると思います。

以上のことを踏まえて学生時代は、「真摯に学ぶ」「多くの人と楽しく遊ぶ」「継続できるスポーツをする」これらを通して「生涯付き合える友達をえる」を意識して過ごすことができればいいと思います。

…とは言うものの、「光陰矢のごとし」「学なりがたし」「二兎を追うもの一兎も得ず」も事実であり、歌にもあるように青春時代、学生時代は、後からしみじみ思うものも事実であり、実感でもあります…というところで筆をおかさせていただきます。



トピックス

先輩から新入生へのアドバイス

何かに挑戦を！～新入生のみなさんへ～

四国電力(株) 配電部
大角 芳史 (E50)

そろそろ入学のシーズンとなりました。私が名工大に入学したのは37年前になりますが、桜満開の中で、学生生活への期待と受験勉強からの開放感とを胸にキャンパスに立った感慨を今でも思い出します。

高校まで運動クラブとは無縁でしたが、大学に入学したら絶対に運動クラブに入ろうと思っていました。体育系クラブでの活動には体力面で一抹の不安もありましたが、体育系のクラブ活動への憧れがずっとあり、ちょうどいい機会だと思ったからです。いろいろなクラブの練習を見に行きましたが、結局、出身高校の同級生が入部したこともあって、バドミントン部に入部しました。

当時のバドミントン部は上級生がハイレベルで、強豪とは言えないまでも名古屋地区ではそこそこのレベルでした。そこに入部した新入生数名は、経験者が1名だけでその他は私を含めて初心者ばかり。当時のキャプテンはこれを見て、特訓でリーグ上位を狙うことよりクラブ員の親睦を図ることに軸足を移すことを決断したのではないのでしょうか。おかげで、練習も思っていたほど厳しくはなく、先輩や同級生と和気あいの雰囲気の中で楽しく活動することができました。

定期的な練習のほか、合宿や懇親会などクラブの活動をメインに学生生活を過ごしました。ダブルスを組んだ先輩からバドミントン以外のこともいろいろ教えてもらったこと、同級生にライバル意識を持ったり、また、心のこもった励ましを受けたりなど、スポーツそのものの楽しさに加えて、仲間との交流が広がったことなどが今でも懐かしく、充実していたということが思い出され、バドミントンに挑戦してみてもよかったですと思っています。青春時代のエネルギーをスポーツに注ぎ、それを通して心を許せる仲間を得、交流を深めていくことはなかなか良いものだと思います。

学生は勉強が本分ですが、勉強以外の自由な

時間はたくさんあると思います。ともすれば漫然と月日が流れ、後でやってあげば良かったと思った時にはもう社会人になっていてなかなか自由な時間がない、といったことのないよう、具体的な目標を決めて思い切って挑戦していただきたいと思います。サークル活動、バイトなど何をするかは人によって様々とは思いますが、後で悔やむことのないよう、ぜひ今の時間を大切に有意義な学生生活を送っていただきたいものだと思います。



卒業後は地元企業の四国電力(株)に入社いたしましたが、現在当社には原子力、火力、系統運用、送・変電、配電、情報通信などの技術部門に名工大卒業生が約30名います。それぞれが各部門で活躍している姿を見ると、同窓生として頼もしく、また誇らしくも感じます。

また、香川県では名古屋工業会香川支部として同窓会組織があります。当社のほか、県庁、JR、建設会社などに勤務している人のほか、現役を退き悠々自適の先輩方など、名簿では90名余りの方々が名を連ねています。国の特別名勝「栗林公園」で年に一度開催される総会には例年30名余りの方々が参加し、それぞれの近況や学生時代の思い出などを語りながら親睦を深めています。

このように、名工大を卒業して名古屋の地を離れても、同窓という縁が人と人を繋げ、お互いの心の交流を深め、さらに場合によっては助け合うというような同胞意識が醸成されています。

新入生の皆さんにおかれましては、何かに挑戦し、充実した学生生活を送られることを心よりお祈りいたします。

トピックス

先輩から新入生へのアドバイス

21世紀を生き抜く名工大生に贈る

愛知県市町村課兼建設総務課(岡崎市都市整備部参事)
高野 昌彦 (C54)

この「ごきそ」を初めて読んでいる新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。名工大で工学を学ぶ皆さんに、30年前に名工大土木工学科を卒業した一先輩として、また、この4月に二女が県内自動車関連メーカー事務職に就職する一父親として、さらに、昨年秋から始まった「トヨタショック」による急速な景気後退の影響を最も受ける愛知県の一職員として、この拙文を大いなる可能性を秘めた若き後輩の諸君に贈ります。

本来であれば、愛知県庁を代表する激励文は、建設部建築担当局長、技監、課長、建設事務所長等の要職におられる名工大の諸先輩が執筆すべきところですが、この執筆時期にあたる年末年始には、それら諸先輩は、県庁の諸行事や事務執行改善等に忙殺されております。そこで、管理職の末席にあり、岡崎市役所に参事として派遣されており比較的時間的余裕のある私に、この大役が回ってきました。

例えば、34年前の昭和50年、生まれ育った大阪を後に、鶴舞公園の桜に祝福され名工大に入学したときのことを昨日の様に思い出します。第一志望校進学への夢は破れたものの、名工大での学生生活や就職・大学院進学など、自分なりの夢も膨らませて、鶴舞公園南のアパートで一入暮らしを始めました。

私の名工大生時代の昭和50年から54年も、第4次中東戦争に端を発するオイルショックにより、昭和49年頃には高度経済成長に終止符を打ち、就職浪人はありませんでしたが、公務員の採用も絞られた時代でした。入学した頃は、漠然とした思いでしたが、都市計画や交通計画を将来やりたいと考えるようになりました。また、これからは「環境」重視の時代になるとの予感もありました。

私は成績上位ではありませんでしたし、応用力学や水理学より英語やドイツ語が好きで、ESSに在籍したり、4年次に5ヶ月間、奨学金を得て道路工学の技術研修でドイツの大学に留

学し、就職時期を逃し、他大学の大学院に進学しました。今思えば、レールを外れた無謀な学習計画・就職計画であり、指導教官の先生方にもご迷惑を



かけてしまいましたが、学外や海外の友人と交流できた「青春している」ことを実感できた経験は、有名大学院進学や公務員試験を犠牲にしましたが、後悔はしていません。幸い、大学院1年次には、企業の省エネ・技術革新等により景気もかなり回復し、昭和55年に愛知県職員となることができました。

ちなみに、私の二人の娘は、父のDNAも受け継いだのか、二人とも外国語学部に進学し、名工大の卒業生も多数おられる県内メーカーの海外営業などに就いています。

このような私の経験は模範とはなりません。先行きの見えない時代にあっても、自分の進みたい「道」を展望しつつ、それを実現するための技術の研鑽や勉強を楽しんでください。嫌なことは長続きしないし疲れます。また、技術者であっても、広く交友関係を築く努力を学生時代から心がけてください。それはきっと、仕事の上でもあなたの「財産」となるとともに、あなたの「人生」を豊かにするでしょう。

愛知県の景気も今が「底」です。これから、技術力に裏打ちされて、景気回復、さらには発展するでしょう。大学時代には、様々な経験をして、技術者として、そして、人間として「基礎力」をつけておいてください。そして、愛知県あるいは岡崎市をはじめとした自治体で活躍される名工大卒業生が一人でも増えることを、愛知県庁支部として期待しています。

トピックス

先輩から新入生へのアドバイス

名古屋工業大学
新入生の方々に“一言、(二言)”

豊田合成(株) 河合 克紀 (G58)

まずは、新入生のみなさん、御入学おめでとうございます。卒業時には、教授/学校関係者の方々には御世話になり、現在、愛知県尾張地区にあります自動車部品関係の技術者として頑張っております。“出来の悪い先輩”として自分の体験も含め、何らかアドバイスになればと記させて頂きく事と致します。

I) 多くの先輩が応援してます！

まずは、あたりまえな点からですが、全国(特に中部・関西圏)には、多くの諸先輩方が活躍されています。みなさんが卒業されて社会人として対外的な責任を持ち出すと「え？実はあの方も先輩だったんだ！」の様な驚きを持たれる事もままあると思います。是非、社会に出られてからも、“コミュニケーションの種”として、「ごきそ」等で、卒業生の方々を一度checkされてはどうでしょうか？(日頃から「アンテナを高く・広く」)

II) 専門外でも通ずる論理的思考を！

これから専門の勉強/研究に取り組まれる中で是非、習得/強化されてはと思う事の一つが、“論理的思考”だと思います。大学での専門が企業での基本と異なる事は確かですが、社会人(大学の期間の8倍以上)としての生活の中では、(各業界で「呼び方」は異なりますが)現状の調査/情報収集/層別⇒企画/計画⇒実施⇒評価/検証⇒再度企画/計画+人への伝達(プレゼンテーション)と言った基本的な事ができる事が重要だと思います。(課題を見つけ、考え、自分の考えを表し、伝える。最近、この基本的な事がうまくできない人が増えて来た様に感じます。)是非、教育/研究・論文等の学生期間にこの感覚を磨かれる事をお奨め致します。

III) グローバル感覚と趣味探し

08年に起きた世界的な不況への危機にも見られる様、私達の生活も既に世界と密接な状況になっております。また社会へ出て多くの方々が

海外赴任・出張経験をされております。新入生のみなさんも既に世界の語学(英語・独語・仏語・中国語)、名工大でも多くの留学生を受け入れ“グローバル感覚”を磨ける機会/環境を得られていると思いますが、「いざ現地/実践」となると国々の文化を含め、思う様にコミュニケーションが取れない経験の話も多く、そんな時に役立つのが、言葉以外の共通点＝“趣味”があると思います。是非、学生時代に“こだわられる趣味”を探しては？”と言う提案です。スポーツ/音楽/美術/陶芸/読書/コレクション/(仕事?)…、この趣味の一つが、他国の人、企業間の人とのコミュニケーションのきっかけとなると思います。(趣味一つでも“探し、やってみる、やり続ける事はパワーが必要だと思います。)

以上、何かの節に、耳にされた様なアドバイスかと思いますが、これからそれぞれの専門分野の勉強/研究で、りっぱな社会人になれるみなさんへの言葉とさせて頂きます。

“がんばってください。応援してます！”



大学時代にこだわった音楽(Blues)のおかげ?で、
現地とコミュニケーション。中央Guitar。
(05: Detroit: The Randy Brock:
興味をお持ちの方はinter netにて視聴可です。)



表彰者紹介

平成20年度叙位・叙勲受賞者は以下のとおりです。
5月23日の名古屋工業会の総会で、工業会からの表彰を行います。

「瑞宝小綬章」

岡田 睦也



【学 歴】

昭和34年3月 名古屋工業大学土木工学科卒業

【職 歴】

昭和56年4月 鳥取県土木部河川課長

昭和58年4月 建設省四国地方建設局河川部長

昭和61年4月 建設省中部地方建設局河川部長

昭和62年5月 (株)エコー 顧問

平成元年4月 (株)テトラ 専務取締役・常務取締役等

平成15年6月 (株)エコー 顧問 現在に至る

このたびの栄誉を賜りましたこと、同窓の皆様方の御支援・御訓導のおかげで衷心より感謝申し上げます。最近土木関係事業が無駄であるとの論調が罷り通っています。しかし地球の温暖化は避けがたく、台風等の巨大化、渇水の長期化がわれています。治水等の施設の整備は緊要の課題でしょう。又道路等の交通インフラの整備も必修でしょう。老婆心ながら最近の風潮を危惧し、一部マスコミなどの論調は憤慨に堪えない者です。

「瑞宝小綬章」

(建設行政事務功労)

光岡 毅



【学 歴】

昭和35年3月 名古屋工業大学土木工学科卒業

【職 歴】

昭和35年4月 建設省入省 阿波国道工事事務所配属

昭和60年1月 建設省九州地方建設局企画部長

昭和62年10月 大分県土木建築部長

平成元年4月 建設省退職

平成3年6月 福田道路(株)入社

平成14年6月 九州建設コンサルタント(株)～

平成18年6月退職

「瑞宝双光章」

(運輸行政事務功労)

東島 良治



【学 歴】

昭和35年3月 名古屋工業大学機械科卒業

【職 歴】

昭和35年4月 通商産業省(名古屋通商産業局)入省

昭和37年4月 運輸省(船舶局)出向

昭和60年4月 中部運輸局船舶部長 退官

昭和60年4月 (財)日本船用機器開発協会事務局長

平成3年5月 (社)日本船用工業会常務理事

平成8～20年 (社)日本船用機関整備協会専務理事

名工大卒業後25年間海外駐在を含む行政官として、また、退官後23年間造船関連工業団体において沢山の方々に支えられて、古希を迎えるまで現役として奉職出来たことに感謝しています。なお、名工会評議員(東京支部)を平成6年から20年まで務めさせていただきました。

「藍綬褒章」

(産業振興功績)

加藤 倫朗



【学 歴】

昭和40年3月 名古屋工業大学窯業工学科卒業

【職 歴】

昭和40年4月 日本特殊陶業株式会社 入社

平成9年6月 同社 取締役

平成12年6月 同社 常務取締役

平成15年6月 同社 専務取締役

平成16年4月 同社 代表取締役社長(現在)

この受章を励みに、これからも世界の皆様のお役に立つ製品、環境に配慮した製品のご提供を念頭に置き、さらに業界ならびに社会に貢献できるよう、引き続き精進してまいります。

「紺綬褒章」

(寄付)

青山 哲也



【学 歴】

昭和23年3月 名古屋工業専門学校電気工学科卒業

【職 歴】

昭和25年12月 株式会社同和製作所設立入社

昭和25年12月 同日取締役就任

昭和46年5月 代表取締役社長就任

平成13年3月 取締役並びに代表取締役社長辞任
現在に至る



平成20年度 名古屋工業会課外活動活性化経費の授与

社団法人名古屋工業会では、平成20年度名古屋工業会課外活動活性化経費の授与式を1月23日に実施し、5つのクラブの代表者に二枚幸夫常務理事から奨励金を授与した。

授与クラブ及び企画内容は以下の通り。

アイスホッケー部…全国大会出場に伴う強化練習の実施

ボート部…艇庫兼合宿所再建のためのOBへの協力依頼

S-EV (ソーラーカー部) …新マシン設計のための実験と現行マシンの軽量化

ロボコン工房…NHK大学ロボコン2009書類審査及びビデオ審査のための機体製作

名工大新聞部…2号館外壁への垂れ幕による名工大生の活動アピール



奨励金授与式

平成20年度 名古屋工業会奨学金の授与

(社)名古屋工業会では、平成20年度の名古屋工業会奨学金の授与式を12月17日に実施し、日本人学生10名、外国人留学生5名の計15名に篠田理事長から奨学金を授与した。授与者を代表して機能工学専攻の高橋明宏さんから謝辞が述べられた。授与者は以下の通り。

社会工学専攻	D3 譽田 孝宏	社会工学専攻	M1 董 淋
情報工学専攻	D1 竹尾 悠介	情報工学専攻	D1 万 程
未来材料創成工学専攻	M1 浅井 智晴	機能工学専攻	M1 高橋 明宏
生命・物質工学科	4年 安井 薫	生命・物質工学科	3年 梶田 達義
生命・物質工学科	2年 永田久美子	生命・物質工学科	1年 カミラ・クレジャン
生命・物質工学科	1年 賀 成莉	建築・デザイン工学科	1年 出屋敷嘉亮
都市社会工学科	1年 焦 浩原	第二部電気情報工学科	4年 渡辺 新
第二部物質工学科	2年 永江 孝光		

(注：Dは大学院博士後期課程、Mは大学院博士前期課程)



奨学金授与式

情報工学専攻 博士後期課程1年 万 程

この度は平成20年度名古屋工業会奨学生に選出して頂き、誠にありがとうございます。名古屋工業会会員の皆様に、心からお礼申し上げます。

私は現在、博士1年次として毎日の生活を送っていますが、研究活動においては学費を含め、様々な費用が掛かることが多くあります。例えば、学会や講演への参加は、場合によっては実費で足を運ばなければなりません。

博士後期課程は、研究が忙しいので、バイトに行く時間はほとんどありません。そんな時に奨学生募集のお話を知り応募しました。そして、ありがたいことに奨学生の一人として選んでいただきました。そのおかげで金銭的な面の悩みが消え、研究に集中することができています。

最後に、貴会の御厚意に心から感謝いたします。今後も精一杯研究活動に励み、貴会および名古屋工業大学、そして社会に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。



機能工学専攻 博士前期課程1年 高橋明宏

今回はこのような奨学金をいただき、ありがとうございました。

10月に交通事故をしてしまいました。そのとき肩を痛めてしまい、アルバイトができなくなりました。生活費の大半をアルバイトによりまかなっていたので、これからを不安視していたなかでこの名古屋工業会奨学生募集を知りました。生活費に加えて、これからは就職活動などで出費が増えるので、今回の奨学金は有意義に使うことができると考えております。奨学金は具体的には、教育費、食費、スーツの購入などに充てたいと思います。

また、奨学金を頂いたことにより、アルバイトに費やしていた時間を研究に活かすことができ、最近の研究がはかどっております。

これからは名古屋工業会奨学生として自覚を持ち、さらに気を引き締めたいと思います。そのためには研究成果を出すために努力することに加えて、その名に恥じないように生活態度も向上させていきたいと考えております。

みなさんのご厚意を無駄にしないためにも、努力し続けたいと思います。今回は本当にありがとうございました。



生命・物質工学科4年 安井 薫

この度は名古屋工業会の奨学生に推薦していただき、ありがとうございます。

東海の集中豪雨で父が営んでいる洋菓子店が全滅し、復旧のために預貯金を使い果たしてしまったため、大学の学費は日本学生支援機構の奨学金から払っていました。大学では、研究室に所属しており、夜遅くまで実験をしているため、アルバイトができません。さらに来年度から大学院に進学するため、さらに学費がかかり困惑しておりました。

この度給付していただきました奨学金は、大学院の入学金や学費のために使わせていただき、今後も実験・勉学等いっそう励んでいきたいと思っております。本当にありがとうございました。



生命・物質工学科2年 永田久美子

この度は、奨学金をいただき、とても感謝しています。

私は大学生活の中で、勉強と部活動を頑張っています。部活動は硬式庭球部に所属しており、女子部の主将を務めています。昨年9月の個人戦の大会では、予選を突破し、初めて本戦に出場することができました。部活動をもっともっと真剣に頑張りたいと思っておりますが、部活動ではいろいろとお金がかかってしまうのでアルバイトもしています。でも、部活動にも時間を費やし、勉強面でも予習、復習、課題などに時間がかかるので、アルバイトをする時間もあまりとれません。本当に勉強も部活動も頑張りたいし、親にもあまり負担をかけたくないなので、奨学金がもらえると、とても助かります。せっかく奨学金がいただけたので、無駄になることのないよう、大切に使用させていただきます。部活動では自分自身もっと上を目指し、チーム全体としても強くなれるよう頑張っていきたいです。勉強も今まで以上に頑張ります。本当にありがとうございました。



第二部物質工学科2年 永江孝光

この度は平成20年度名古屋工業会奨学生に採用して頂き、誠にありがとうございました。

私は現在学部2年次として専門科目の勉強に励んでおります。そして、来年度の6月に転部試験を受けることを考えています。なので頂いた奨学金は参考書の書籍等の購入費として有効に活用させていただきます。

これから更に専門のことを学び、自分がどの分野を専門に研究していきたいかを考え、それに向かって熱意を持ってやっていきたいと考えております。

最後になりましたが、名古屋工業会の皆様に心から感謝いたします。今後も精一杯勉強や研究活動に励み、名古屋工業会及び名古屋工業大学、そして社会に貢献できるよう頑張っていきたいと考えております。



交流コーナー

よさみ 依佐美長波無線送信所(刈谷) 物語

—送信用高周波発電機の分解調査とIEEEマイルストーンへの登録—

名古屋工業大学名誉教授 荒井 英輔

1. はじめに

今から10年以上前までは、東京から名古屋に帰ってくるとき、車窓の南側にアンテナ鉄塔群が見え始めると、降りる準備を始めたものである。アンテナの下には依佐美長波無線送信所があり、数奇な運命をたどってきた。アンテナは1997年3月に解体されたが、送信所の設備は建物とともにその後も残っていた。ところが、ついに2006年3月に解体撤去されることになり、私はたまたまその現場に立ち会うこととなった。以下に、送信所の経緯、長波送信設備の概略、解体直前に実施した高周波発電機の分解調査、最後に米国電気電子学会（IEEE）の「マイルストーン」への登録作業の概略を紹介させて頂く。

2. 依佐美無線送信所の数奇な運命

最初に、依佐美無線送信所の建設から撤去までの80年の歴史を簡単に紹介する。

依佐美送信所はヨーロッパとの無線通信を行うため、1929年に愛知県刈谷市の南部、旧依佐美村に世界最大級の長波無線通信システムとして建設された。その後、第2次世界大戦中は日

本海軍、戦後は米国海軍によって使用されるなど、極めて数奇な運命をたどった。

第1次世界大戦中、日本の海外通信網は極めて貧弱で、外国と通信するためには世界中に植民地を持っている大英帝国が支配する海底及び陸上ケーブル網の有線通信に頼らなくてはならなかった。第1次大戦終了後、通商関連の通信が急拡大し、同時に国際連盟（本部ジュネーブ）や軍縮会議など外国との外交交渉が活発化して機密電報の漏洩防止が必須となり、日本独自の通信設備が必要となった。こうした状況下、対米通信は福島県原ノ町に、対欧通信は依佐美村に大規模な無線送信所が建設された。（写真1）

依佐美送信所は1927年に建設工事が始められ、ドイツから設備を導入して1929年4月に完成した。4月15日のワルシャワを皮切りに、ベルリン、パリ、ロンドンと次々に長波による無線通信を開始した。さらに、日本が国際連盟から信託統治を任されていた南洋諸島への通信も始められた。

用いられた送信システムの心臓部はドイツのテレフンケン社設計・AEG社製造の巨大な500kW高周波発電機である。しかしながら、依佐美送信所の長波通信システムは開始後すぐに、短波通信に主役の座を譲らなければならなくなった。短波は電離層で電波を反射して伝わるので、大電力を必要とする長波通信に比べて、小電力で通信が可能だからである。このため、海外通信は短波通信が主流となり、長波の送信設備は、電離層の変動により短波通信が不安定になる冬場などの時期だけに使われた。

しかし、第2次世界大戦が始まると、依佐美の長波設備は再び脚光を浴びることとなった。電波は周波数が低いほど、水中深く浸透すると



写真1. 依佐美長波無線送信所の正面玄関

いう特性が注目され、1941年末、太平洋戦争開始とともに、日本海軍の管轄となった。長波は20～30mの深さまで浸透するため、潜水艦への通信手段として使われたのである。1941年12月8日の太平洋戦争開始の攻撃開始命令「新高山登レー二〇八」は、12月2日午後5時半に連合艦隊の通常艦艇へは船橋送信所から短波で、潜水艦へは依佐美送信所から長波で送られた。

第2次大戦後、連合軍総司令部（GHQ）は依佐美送信所に閉鎖命令を出した。ところが、1950年、アメリカ海軍は解体予定であった送信所を接收し、米国海軍の潜水艦通信基地として使用するため修理を開始し、1952年7月から使用を開始した。1930年代には短波時代の到来、1947年にはGHQからの命令という2回も解体の危機に陥りながら生きながらえ、60年にわたって運用されるという世界の中でも珍しい数奇な運命をたどった。

そして1964-1975年のベトナム戦争時代には米軍基地として反戦平和運動のデモに囲まれたりもした。時は流れ、米ソ冷戦が終結した1993年に送信業務を停止し、翌1994年、日本側に返還された。1997年アンテナ鉄塔は解体され、そして2006年3月には2式あった送信設備の1式は刈谷市が新たに建設した依佐美記念館に収容された。残りは建物も含めて解体撤去・廃棄され、70年余にわたる依佐美送信所の歴史に幕を閉じた。

なお、対欧無線通信の受信所は依佐美送信所より1年早い1928年に、三重県海蔵村（1930年四日市に合併）に建設され、伊勢湾を挟んだ依佐美村の送信所と海蔵村の受信所は名古屋無線電信局を親局として結ばれた。

3. 依佐美送信所の送信システムの概要

依佐美送信所の送信室には直列に4台並んだ発電機と電動機が現用と予備の2式配置され、さらに大きなコイル、コンデンサ、トランス、電池、抵抗などが多数設置されている。(写真2)



写真2. 送信室の内部

また、送信室の一角には、メータ類が並んだ監視室があり、現代の電子的な無線設備からは想像もできず、まるで発電所のようなものである。これら設備の多くは、その内部構造まで目で見て確かめることができるので、電磁気学の勉強には最高の教材とも云える物ばかりである。

この送信システムは高周波発電機を中心とする高周波発生部と、得られた周波数を3倍にする通倍回路部からなる。高周波発生部は外部からの商用電源により誘導発電機（920kW）を回し、以下、直流発電機（860kW）、直流電動機（720kW）、高周波発電機（500kW）の順に回転・駆動する。ここで、誘導発電機で直接、高周波発電機を駆動するのではなく、途中で直流機を介在させている。直流機は高周波発電機の回転数を検知してその回転数に合わせて直流電力を変化させ、高周波発電機の回転数を制御する（ワード・レオナード速度制御方式）。この高周波発電機で得られる周波数は5.814kHzである。次にコイル、コンデンサ、トランスからなる通倍回路部で3倍の17.442kHzの高周波に通倍される。

17.442kHzの高周波は断続するモールス信号となり、高さ250m、全8基の鉄塔に展開された16本のアンテナから空中に電波伝播された。アンテナ鉄塔は1本あたり300トンもあり、その下部は碍子で絶縁されている。アースはアンテナ直下に縦横、1760m×880mの広大な面積

にわたって地下60cmの深さに銅線が網の目のように敷きつめてあった。

4. 高周波発電機の分解調査

2005年6月、私はたまたま電子情報通信学会東海支部の支部長を引く受け、引継ぎの総会に参加した。その席で、中部産業遺産研究会会長の田中浩太郎氏（元電子情報通信学会東海支部・支部長）から、「長年にわたって依佐美送信所の保存活動を進めてきたが、残念ながら2006年3月に解体撤去されることになった。長波送信設備の現用と予備の2式のうち、1式は刈谷市が建設する記念館に収容されることになっているが、残る1式は行き先がない。貴重な高周波発電機については、製造したドイツの駐日大使館にもその引取りを問い合わせているが難しそうである。（写真3）このままでは、記念館に引取られない設備は廃棄の危機にある。なお、依佐美送信所と同様のグリメトン長波無線送信所（スウェーデン）は2004年にユネスコの世界遺産に登録された。」との説明があった。

会議後、私は歴史的に貴重な科学技術遺産がむざむざと廃棄されてしまうのはあまりに惜しいと考え、直ちに国内の主な国公立だけでなく企業や大学も含めた博物館に高周波発電機の受入れ依頼の手紙を送った。しかし、数十トンにもなる巨大な高周波発電機を受け入れてくれる博物館は無かった。

ところで、私は半導体関係が専門で、発電機や電動機などの重電関係は不案内であり、高周波発電機の構造はもちろん、その技術史的意義なども全く知らなかった。田中浩太郎氏が書かれたある解説論文に「依佐美送信所で用いられていた高周波発電機はアレキサンダーソン型高周波発電機であり、大出力真空管が出現するまで用いられた」と記載されていたのを読み、本学の竹下隆晴教授に「アレキサンダーソン型高周波発電機とはどのようなものか」と問い合わせた。竹下教授からは、「昔使われた機械で、回転子に誘導子と呼ばれる多数の突極が形成され、誘導子の回転により電機子コイルに高周波電力を発生できるもの」と教えてもらった。

いずれにしても、依佐美送信所の発電機が本当にアレキサンダーソン型であるのか否かも含めて、詳細な情報は不明であった。そこで、竹下教授に誰か専門家を紹介してもらいたいと依頼したところ、電気学会回転機技術委員会の元委員長だった坪井和男教授（中部大学）を紹介してもらった。早速、坪井教授を訪ね、ぜひとも専門家に集まってもらって、依佐美送信所の高周波発電機の調査と活用法の検討協力をお願いした。坪井教授は快諾され、早速、回転機を専門とする大学の先生や重電メーカーの技術者などの専門家を集めて検討委員会を立ち上げ、依佐美送信所の現地調査を実施された。その結果、発電機を分解して詳細な調査をし、同時に

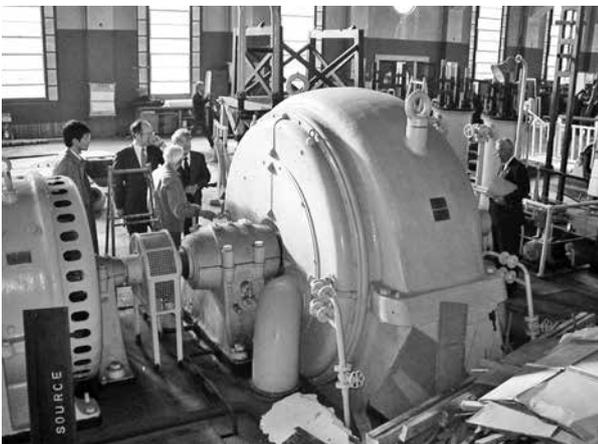


写真3. 高周波発電機



写真4. 高周波発電機の分解工事

表 1. 依佐美送信所とグリメトン送信所の高周波発電機の比較

送信所 (送信周波数)	長波発生システム	高周波発電機の仕様	回転子の寸法と重量
依佐美 (17.442kHz)	高周波発電機 + 3 通倍回路	型式：誘導子型 (独・テレフンケン社設計/AEG 社製造) 誘導子数：256 回転速度：1360rpm 出力周波数：5.814kHz (3 通倍回路で 17.442kHz へ) 出力電力：500kW	直径：1.83m 幅：1.1m 重量：21.2 トン
グリメトン (17.202kHz)	高周波発電機のみ	型式：アレキサンダーソン型 (米・GE 社製造) 誘導子数：488 回転速度：2115rpm 出力周波数：17.202kHz 出力電力：200kW	直径：1.6m 幅：0.08m 重量：1.5 トン (計算値)

分解状況をビデオに記録として残すこととなった。

2006年3月6, 7日の2日間にわたり、高周波発電機の分解工事を行った。工事の主体は発電機の回転子を抜き出すことである。初日は25トンレッカー車で作業を始めたが、発電機が既存資料に記載の値よりも重いことが分り、翌日は50トンレッカー車に交換して作業を進めた。(写真4)

高周波発電機は巨大なばかりでなく、外側の固定子と内側の回転子のギャップはわずか1mm程度という、非常に精密な機械でもあった。左右の側壁版を取り外した後、片側の軸受部を取り除き、レッカー車で回転子を引き出した。損傷防止のため、回転子と固定子の間のギャップに0.5mmのガラス繊維を差し込んだが、狭いギャップを保ちながら回転子をほぼ水平に抜き出すのは大変な作業であった。取り出した回転子の重量は21.2トン、直径は1.83m、幅は1.1m、軸長3.44m、また高周波発電機の総重量は38トンであった。

この回転子の特徴は、幅が1.8mと極端に広くて重く、その中央部はへこんでいることである。アレキサンダーソンが取得した米国特許 (US Patent No.902,195(1908)) の図面と比較すると、アレキサンダーソン方式は幅が狭くて軽く、中央部が突起状になっていて高速回転に適しているため、依佐美の高周波発電機はアレキサンダーソン方式ではないことが分った。最終的に、依佐美の発電機は通常、誘導子型と呼ばれる高周波発電機であると結論された。この発電機の回転子は重いので機械強度上、高速回転は出来ないが、その代わり、回転速度、すなわち、発生周波数は極めて安定しているのが特徴である。

分解した高周波発電機の回転子はその円周上に誘導子と呼ばれる256個の歯車状の歯 (突極) を持っており、回転子巻線は持っていない。回転子を包んでいる固定子は左右の固定子鉄心部の溝の中に電機子コイルを持っている。発電機が回転すると、電機子コイルの内側を回転子の誘導子が高速で通過するので、電機子コイルと

回転子の間隔（ギャップ）の幅が周期的に変化し、電機子コイルの鎖交磁束が増減して、交流電力が発生する。交流電力の周波数 f は誘導子の突極数 P 、毎秒の回転速度 n とすると、 f は P と n の積となる。分解した発電機では、 P は 256、回転速度は毎分1360回転で運転されていたので、周波数は5.814kHzとなる。これを通倍回路で3倍の17.442kHzにしていた。

分解調査後、ユネスコの世界遺産に登録されたスウェーデンのグリメトン送信所に問い合わせ、グリメトン送信所ではアレキサンダーソン式高周波発電機（出力200kW）を用いており、通倍回路を用いずに直接17.202kHzの長波を発生していることを確認した。以上より、依佐美とグリメトン送信所の方式は発電機を用いた2つの代表的なものであり、依佐美は高出力で安定性、グリメトンはシステムの簡略化が特徴であると結論された。（表1）

なお、分解調査結果は、電子情報通信学会東海支部から報告書およびDVDにまとめられ、学会へ申し込めば誰でも入手できるようになっている。

5. IEEEのMilestone への登録

2007年の年末近くに、突然、本学の藤原修教授（元IEEE名古屋支部・支部長）から、依佐美送信所を米国電気電子学会（IEEE）が設けている「マイルストーン（電気工学上の貴重な遺産）」へ登録したいので協力して欲しいとのメールが入った。なお、これまでに日本からマイルストーンに登録されているのは、八木・宇田アンテナ、新幹線、富士山レーダーなど7、8件しかないとのことであった。早速、提案書の内容を作り、藤原教授に送った。提案題名は「Yosami Radio Transmitting Station, 1929」とした。この間、藤原教授がドイツに出張される機会があったので、ミュンヘン博物館に寄ってもらい、依佐美送信所の送信設備を設計したドイツのテレフンケン社および製造したAEG社

の特許、当時の社内報などの関連資料入手と、ドイツ製高周波発電機と米国アレキサンダーソン特許の関係についてのドイツ側の見解を聞いてもらった。入手資料により、1928年にドイツから依佐美送信所に納入された高周波発電機は当時世界最大級であったこと、その後、急速に真空管を使った短波通信に変わって行ったため、依佐美に納入された発電機は世界最大にして最後の装置であったことなどが分った。

提出した推薦書は2008年11月にIEEE History Committeeで登録が承認され、2009年5月には依佐美記念館で授賞式が開催されるとの通知をIEEE名古屋支部から得た。

6. あとがき

携帯電話が飛躍的に発展した現在、電波を作る送信機の心臓部は半導体部品で作られている。それより前の時代の無線通信は真空管式送信機であった。そして、その前は、マルコニーの火花放電の時代だったとばかり思っていた私にとって、真空管の前は発電機を用いて高周波を発生していたなどということは大きな驚きであり、さらに、ここ数年間の調査や登録作業の中で、国家間の壮絶な通信主権の闘いとも云うべき無線通信の技術史について貴重な勉強をさせてもらった。

以上、依佐美送信所について簡単に紹介してきたが、百聞は一見に如かずであり、興味を持たれた方はぜひとも、依佐美送信所の隣に刈谷市が建設した依佐美記念館を訪ねて現物の送信設備を見て頂くことをお勧めしたい。

最後に、ここ数年間の作業を進めるに当たり、本学の先生方、竹下隆晴教授、曾我哲夫教授、藤原修教授にお世話になり、ようやくIEEEの登録にまでこぎつけることが出来た。ここに記して感謝の意を表します。

紀行

チェコに魅せられて (その2) ボヘミアの地方都市とモラビアの中心ブルノ

梶田 隆男 (W36)

最初に筆者の頭の整理のために、チェコ共和国の近代史を要約してみたい。チェコスロバキア（1993年にチェコとスロバキアに解体）は本来オーストリアを凌ぐ実力を持つ国だった。歴史的にもハプスブルグ帝国の中核をなしていた。そしてプラハは神聖ローマ帝国の首都でもあったし、当時ウィーンより由緒ある都会だった。第1次世界大戦後1918年に300年続いたハプスブルグ帝国は終り、チェコスロバキアはようやく自由と独立を手にした。しかし僅か20年後の1938年チェコスロバキアはナチスドイツの野望に屈した。チェコは1939年ドイツに併合され、スロバキアはナチスドイツの傀儡国家となった。そして1945年ナチスドイツの敗北により終結した第2次世界大戦後、チェコスロバキアは再び独立国家として蘇った。しかしソ連による東欧支配の強化と米ソ冷戦に伴いチェコスロバキアは中欧の要衝の地にあるため自由と独立を奪われた。1968年プラハの春民主化運動もワルシャワ条約機構軍の軍事介入によって潰された。しかし1989年ベルリンの壁崩壊に伴い、いわゆるビロード革命によって共産党独裁政権は倒れた。プラハが第2次世界大戦の戦災を殆ど受けなかったのは奇跡であった。プラハはもちろん地方都市へ行っても石造りの建物が、中世そのままに残っていることを考えても文学と芸術の国として標榜していることに納得する。

さてプラハを遠く離れた地方旅行の楽しみは何と言っても小さな教会で開かれるミニ・コンサートであろう。2002年6月に訪れた温泉地カルロヴィ・ヴァリまでは、プラハのフローレンス・バスターミナル発の長閑な2時間半のバス旅行であった。市内バスターミナルで下車し、テプラー川沿いに漫歩し幾つものコロナーダを過ぎた処に聖マリーマグダレーナ教会があっ

た。2本の塔に時計を持つバロック様式の白亜の教会の何と美しいことか。この教会でのミニ・コンサート開演は午後4時であり、時間に余裕があったので取り敢えず、この先に予約してあるホテル・ドヴォルザークにて旅装を解いた。社会主義体制時代に東欧社会主義国要人の保養施設としての重要な役割を果たしたグランド・ホテル・プップ（当時の名はグランド・ホテル・モスクワ）は、筆者が投宿したホテル・ドヴォルザークのすぐ近くにある。テプラー川に面して建つホテル界隈をぶらぶら歩きした後、コンサート会場の人となった。グノーのアベマリアを唄う天空より響き下りるソプラノの神々しくも清らかな響きに魂が洗われる思いだ。19世紀には、各国の王侯貴族や著名人が大勢保養にやってくるようになり、ゲーテとベートーベンが同宿したという記録が残されているが、この聖マリー・マグダレーナ教会も訪れたらどうか。

2006年5月に南ボヘミアに位置し、オーストリアのリントに程近い中世そのままの町並みを残すチェスキークルムロフと、そこへの入り口の町にして南ボヘミアでの交通の要衝の町であるチェスケープディヨヴィツェを訪れた。プラハ中央駅発リント行きの急行列車にてチェスケープディヨヴィツェまで行き、ここでローカル線に乗り換えてチェスキークルムロフまでは3時間40分の長旅であるが、途中ハプニングが起った。プラハを出発し1時間を若干過ぎた頃車内放送があって、しばらくして外国人の乗客の多い筆者達の車輦に車掌が現れて、「線路工事のためこの先のツァホリ＝ターボル駅（スメタナのわが祖国の第5曲の題名になった町）間をバス輸送するので、バスに乗り換えてくれ」とのこと。臨時停車した駅は、通常は急行列車の停車しない駅ゆえプラットホームが短く、大

きなスーツケースを持ち汗をかきかき線路を横断して待機していたバスに乗り込んだ。ターボ駅で再び別の列車に乗り換え定刻より20分遅れでチェスケーブディヨヴィツェに到着した。ここからチェスキークルムロフまでのローカル線（ジーゼル単線）の車窓からの美しい風景が先程の苦労を忘れさせてくれた。ローカル列車は時にモルダウの細き流れと並走し、くねった流れと別れて針葉樹林のボヘミアの森奥深く進入し、再び車窓が明るくなると左右の小高い丘に群がる牛達が眼に入ってくる。まるでザルツブルグ郊外を舞台にした映画「サウンドオブミュージック」を1時間観ている心境であった。

大きく屈曲して流れるモルダウの源流にやさしく抱かれて、中世そのままの姿を残すチェスキークルムロフは世界でも最も美しい町のひとつとされている。近年ここを訪れる日本人観光客は大変多い。大きく屈曲して流れるモルダウの右岸断崖の上に建つ16世紀に創建された修道院を利用して1889年に開業したとされるホテル・ルージュに2泊した。ホテルの西隣に聖ヴィート教会があるが、ミニコンサートはないようだ。ホテルのフロントで旧市街の中心スヴォルノスティ広場に面したホテルでミニコンサートが開かれることを聞きつけ、会場の人となった。熟年女性の弦3部によるバロック音楽の夕べを心地よく楽しんだ。翌日モルダウ川左岸断崖に建つチェスキークルムロフ城一帯を2時間程散策した後、別のルートにて下城した。城の直下を流れるモルダウの対岸の岸辺に恰好



モルダウを下るカヌー

のオープンカフェを見つけ、取り敢えず喉の渇きと空腹を地ビールのエッゲンベルグとロースト・ポーク・クネドリーキで満たした。わん曲するモルダウ上流より中学生らしき少年少女達の漕ぐ4隻のカヌーが、筆者の眼前を静かに時に賑やかに下って行く。後方よりさらに10隻程のカヌーが続いて来ている。背恰好とか顔の表情から多分中学生と推察されるが、学校での体育の時間の校外実習であろうか。それにしても世界遺産の中でのカヌーによるモルダウ下りとは、何とぜいたくで風情があるではないか。時折女子学生の発する歓声と水音とが重なり合って、スメタナの「モルダウ」前半部に活躍するホルンとトランペットが勇壮に響く森の狩猟の情景を連想させてくれた。こうして心身共に至福な一時間を過ごさせてもらった。感謝。感謝。

帰途チェスケーブディヨヴィツェでは、正方形をしたプジェミスル・オタカル2世広場に面したグランド・ホテル・ズヴォン（1533年創建）に投宿した。モルダウ川右岸に位置するこの小さな交通の要衝の町でのエピソードを一つ披露しましょう。旧市街を一通り散策した後、聖ミクラーシュ教会の正面脇にある高さ72mの黒塔に登った。頂上から見下す旧市街は実に美しいが、生憎、先刻来の霧雨のため視界が良くない。頂上より10m程下りた辺りで登ってくる足音と共にゴツン、ゴツンという不規則で異様な音が聞こえるので、薄暗い下方を凝視すると縦長の大きなリュックサックを背負った人が登ってくるのではないか。その不規則な異様な音は、狭くて天井の低い階段を登る度に大きなリュックサックが壁に天井に触れて発する音だった。近くの広くもない踊り場に待機していると眼前に現れたのは20代半ばの日本女性であるのに驚いた。これより上に登るにつれ更に狭くなる旨説明して、同じ日本人のよしみで筆者がこの場所で彼女が頂上より戻るまで大きなリュックサックを預かることにした。待つこと数分、一緒に地上の人となって夕食にはやや早い、食卓を共に囲むことになった。食が進むにつれ話も弾んだ。なんでも日本の某航空会社の地上職として米子

空港に勤務していたが、退職記念にとヨーロッパ一人旅を計画し、ミュンヘン、プルゼニュ（ピルゼンビール発祥の地）を巡って、午後にチェスケーブディヨヴィツェに着いたとのこと。今晚の宿は徒歩で数分の処にあるユースホテルを確保してある由。

ヨーロッパを一人旅するに相応しく堅固な意思の持ち主とお見受けした。話は尽きそうになかったが明るい中にとユースホテルへと送り出した。もちろんダッチ・アカウントにする程筆者も野暮ではなかった。

チェスケーブディヨヴィツェからの帰路は線路工事は終わったのかプラハまでの2時間半の列車の旅は快適そのものであった。

チェコは西部のボヘミア地方と東部のモラビア地方からなり、それぞれが王国だった時代もあった。地政学的にもこの両地方は異なっている。ボヘミアとモラビアを分けるのは、ボヘミア＝モラビア高地であり、この緩やかな高地で隔てられるモラビアは、ドナウ川に注ぐモラヴァ川流域に広がっている。一方チェコの歴史、文化、経済の中心でもあるボヘミアは、モルダウ川流域に広がる山脈によりオーストリア、ドイツ、ポーランドと国境をなす盆地でもある。

前述のノンフィクション小説「プラハの春」は、主人公の堀江亮介（在チェコスロバキア日本大使館員）が復活祭の休暇を過ごしたウーンよりの帰途、ブルノ西方の駐車場で東独人母娘との運命的出会いから展開する。小説「プラハの春」の発端となった場所に少しでも近づくべく、鉄道交通の便利なブルノまで足を伸ばすことにした。プラハ・ホレンショヴィツェ駅発の急行列車は、コーリンまでは真東に向かい、その後南東に大きく迂回するルートを取り2時間半でブルノに着いた。

始めてモラビア地方に入ったが、車窓から眺める光景がボヘミア地方とは少なからず異なるのに気付いた。モラビア丘陵の方が起伏に富んでいるようだ。農作物も異なるようでボヘミアではそれほど目にしなかったぶどう畑、トウモロコシ畑、或いはサクランボ畑が散見された。

ワイン好きの筆者としては夕食のブルノワインが大層楽しみだ。

ブルノ駅前を北に延びる繁華街のマサリコヴァ通りをしばらく歩くと、左手奥に緑の広場があり、青物市がたっていた。既に午後1時過ぎなのに朝市が開いているのにいささか驚いた。一巡してみると青野菜、果物、生花も瑞々しく新鮮なものばかりが揃っている。長さ15cmはあろうかと思われる淡緑色のジャンボ・パプリカにはたまげた。サクランボも今が最盛期で500g買って、17世紀に建てられた広場の中央にあるパルナス噴水の側で美味しく食した。シュピルベルク城の麓にあるホテル・インターナショナルで旅装を解き、2時間ほどで広くない旧市街をくまなく散策した。かつてモラビア王国の首都として栄えたブルノには、シュペルベルク城や教会などの文化遺産が数多く残されているが、観光客は少ない印象だ。毎年3回大規模な国際見本市が開かれる商工業の中心都市であり、郊外のサーキットではオートバイ、自動車レースも行われると聞く。投宿したホテルも観光客相手というよりむしろビジネス客向けで、機能的、実用的な構造になっている。フロント係の対応も至ってビジネスライクで居心地よい。

例によって例の如く街を歩きながら、それらしく魚料理の店を探してみたが、どうにも見当らない。街の中心である自由広場近くのオープン・カフェで、遅いランチをとっていたので、それならと近くに見つけたスーパーマーケットでパン、チーズ、乾肉、ヨーグルト、リンゴ、バナナそしてモラビア白ワインを買い込んだ。ホテルでのセルフ・ルーム・サービスで済ませた。こういう時のスーパーマーケットの活用は大変便利だ。

修道院の司祭のかたわら、エンドウ豆の交配実験を行ない、メンデルの法則を発見した修道院跡（現在はメンデル記念館）をブルノ旧市街の西外れに訪ねたかったが、今回は残念ながら実現しなかった。

学生コーナー

辛酸苦楽の毎日

情報工学専攻 博士前期課程 和田研究室
Shukai Cai

3年前の秋、日本への憧憬、そして未来に対する不安を抱えながら、23年間住んでいた祖国中国を離れ、一人で日本に留学にきました。この3年間の留学生生活を振り返ってみると、「辛酸苦楽」をなめ、最も有意義な3年でした。

「辛」。日本と中国の物価の差のため、両親からのわずかな仕送りだけでは生活ができず、日本にきてから1ヶ月も経たないうちに、アルバイトを始めました。そして、生活費を節約するため、自分で料理をするようになりました。しかし、両親になんでもやってもらい、にんにくと玉葱さえ区別できない私にとって、料理をするのは大きな山でした。そして、学部と大学院の専攻が違うため、睡眠時間を削り、沢山の科目を独学し、授業中に眠気と戦う毎日は本当に辛いことでした。

「酸」。毎日プログラムを設定されたロボットのように生活を送りました。朝7時半に起床し、お弁当を作り、そして学校が終わったら、アルバイトを始め、家に帰るのはもう夜中でした。しかし、「お帰り」を言ってくれる人が誰もいませんでした。このような異国にいる一人暮らしの孤独感は恐らく経験したことがある人



留学生の仲間と一緒に、豊国神社にて
著者は右から2人目

しかわからないでしょう。試験で失敗した時、アルバイトで叱られる時、ホームシックの時、この「酸」を何回も味わいました。

「苦」。日本にきた頃、日本語が上手ではないため、何事も上手くいきませんでした。アルバイトでは仕事が順調にいかず、友達ができず、入学試験に失敗し、毎日嫌なことばかりでした。「もう帰りたい、なんのために日本にきたの?」と思ったことが何回もありました。しかし、私のことをずっと支えてくれている両親、友達および先生達を失望させたくなかったため、プレッシャーを抱えながら、諦めずに、頑張ってきました。

「楽」。日本にきて辛いことばかりではなく、楽しいこともいっぱいありました。日本語が上手になり、日本人と流暢に喋ることができるようになり、友達も沢山できました。様々なお祭りやイベントなどに参加し、日本文化にふれたり、大学院に合格し、色々な学会の研究発表に参加したり、毎日を充実させることができました。また、アルバイト先では仕事を把握することができ、お客さんに褒められたことも少なくありません。3年間料理を練習した結果、今では自慢できる本場の中華料理を作れるようにもなりました。また、日本で就職できること、今の奥さんと出会い、結婚したことなど一生忘れられない楽しいことばかりでした。

来年卒業した後、日本で就職し、自分のため、そして今まで私を支えてくれた人々のため、日本と中国の架け橋として、日中友好に自分の力を尽くしていきたいと思います。毎日「辛酸苦楽」を味わえる日本での留学生活は私の一生の宝物です。

学生コーナー

私の故郷、中国南京

情報工学専攻 博士後期課程 高橋・片山研究室

Yi Yin

私は中国南京出身の殷奕と申します。南京市は中国江蘇省の省都で、長江の下流に位置し、丘陵地に囲まれた緑豊かな町です。四季がはっきりしており、とりわけ夏は、武漢市や重慶市と並んで「中国の三大かまど」と称されるほどの暑さとなります。その歴史は非常に古く、南京東部の湯山で猿人の頭蓋骨が出土したことから、数十万年前には既に人々が住んでいたと推測されています。紀元前472年に越王が呉を滅ぼし、現在の中華門あたりに都を築いたのが城壁の町「南京」の始まりで、その後、東呉、東晋、宋、齊、梁、陳、南唐、太平天国、中華民国と、10に及ぶ朝廷や政権がこの地に都を置きました。

南京では主な観光スポットは中山陵、明孝陵、南京博物院、梅園新村、煦園、瞻園、南京市博物館、中華門、秦淮河などがあります。この中で中山陵は一番有名です。中山陵は市の東郊、紫金山の南斜面にあり、偉大な愛国者孫文の墓です。辛亥革命後、南京に中華民国臨時政府をおいた孫文は、1925年3月12日に北京で58年の生涯を閉じたが、遺志により4年後の1929年に遺体がここに移された。墓は著名な建築家であった呂彦直によって設計された。南から北へ約400段の石階段を登ると紫色の瑠璃瓦をいただいた霊室があり、その前には孫文の大理石像が築かれている。総面積30平方キロメートルの陵園は緑におおわれ、毎年国内外多くの人々が訪ねています。

南京市民の大好物と言えば、アヒル料理です。塩水鴨（アヒルの塩煮）で、塩加減、料理に使うアヒルの品種など、その料理法には各店にそ

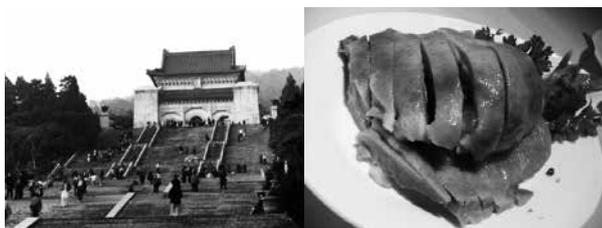
れぞれ秘伝があります。最も有名なものは「金陵桂花鴨」で、油身でも脂っこくなく、価格は普通の「塩水鴨」よりやや高い程度です。

そのような町で育てられた私は2001年11月28日に、不安を抱きながら日本の国土を踏みました。「光陰矢の如し」、気づいたら7年過ぎました。もうそろそろ博士卒業します。この7年間を振り返って見ると、日本に対して、言葉で表せない感謝の気持ちがいっぱいです。

日本の人々から留学生ための支援制度がたくさんあります。私は日本に来て、7年間ずっと安くて、美しく、安全な学生寮を住んでいました。また、学費を免除された上で奨学金もいただきました。私費留学生の私に対して、大きな経済の負担がなくなりました。

また、大学の先生の熱心指導は再び私を感動させました。私の研究室の高橋教授はその代表の一人です。私は研究について先生と相談した時、先生は忙しくても、自分の事を置いて、まず私とゼミをしてくださいました。日本の温かい支援と先生の熱心指導がなければ、私は博士を取れませんでした。他たくさんの留学生と同じように、日本に来て本当によかったと思います。

私は卒業した後、大学に勤める予定です。私は高橋教授のような熱心指導の先生になりたいです。そして、日本で勉強した知識を生かして日本と中国の架け橋になりたいと思います。



中山陵の石階段

塩水鴨



旅行時に友達と船中で（右が筆者）

クラブ紹介

No.8 NITMicの活動

コンピュータクラブ部長 榊原宏章
(情報工学科2年)

活動趣旨 コンピュータクラブはコンピュータに関連した様々な知識と技術を深め、そして実際の開発を趣旨として活動しています。そのため、定期的な講座や合宿で互いに学びあう機会を設け、またコンテストで実力を試すなどの活動をしています。発表の場は、工大祭での作品の展示とつぎのサイトでの公開です。

(<http://www.club.nitech.ac.jp/~nitmic/>)

左下の写真はデスクトップPC 4台からなる開発環境です。デュアルディスプレイ環境を構築し、作業効率の向上を図っています。部室内にサーバを設置し、その管理も行っています。

クラブの活動 次は年間スケジュールです。

4月	新入生歓迎会
6月	工大祭出展
7月	U-20プログラミングコンテスト
8月	強化合宿
12月	ハル研究所プログラミングコンテスト
3月	追い出し会

U-20プログラミングコンテストは、経産省等が主催する情報化月間に併せて開かれるプログラミングコンテストで、2007年度応募総数は108作品、独創性や技術力が審査されます。2006年度、「block!block!」という作品が入賞しました。従来のブロック崩しに物理演算を加え、派手な画面効果で視覚的にも楽しめ、爆発や光、桜の舞い散るエフェクトが鮮やかなゲームです。右下がスクリーンショットです。

2008年度は「草登り」が入賞しました。五種

類の植物を植えて足場をつくり、ゴールを目指すアクションパズルゲームです。一度植えた植物を刈り取り再利用できるようにすることでパズル性が増しています。三段階中、高難易度は容易にはクリアできないよう練りこみました。タイムアタックも可能です。

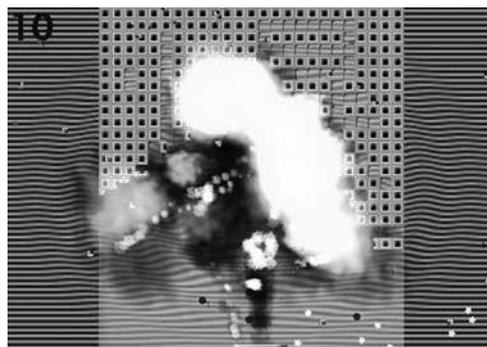
有名ゲームメーカー主催のハル研究所プログラミングコンテストはクロスワードを完成させるなどの問題が提示され、その実行速度などを競います。その他各自でもコンテストを受けたり、講座を行ったりなど、活動しています。

活動状況 課外活動棟4階で活動しています。現在は現役生(1~3年)のみで36名の大所帯です。情報工学科の学生が数多くいますが機械、電気電子、生命物質等、様々な学科の学生が在籍し、知識を共有しあっています。

プログラミングだけではなく、コンピュータグラフィックスやDTM(デスクトップミュージック)、Webプログラミング、機械・電子工作など様々な活動しています。各々が好きなことを学び、吸収し合いながら重ね合わせて一つのものを作ります。講座は事前に希望を取ったり、あるいは各自で開きたいと思う講座を開きます。具体的には新入生向けのDirectXプログラミング講座やphotoshopを使ったCG加工/写真編集のテクニック、楽曲作成のコツ等です。スライドやサンプルコードを用い、課題などを自分たちで考え用意して演習を伴った実践的な講座を行い、着実な技術の習得を図っています。



コンピュータクラブの開発環境



2006年度入賞のblock!block!の画面

クラブ紹介

No.9 自己ベスト更新を!ゴルフ部

ゴルフ部部長 山盛浩明
(生命物質工学科2年)

名古屋工業大学ゴルフ部は、現顧問の中西教授らが昭和49年に創設し、紆余曲折を経て、現在まで続いているもので、現在の部員数は約25人です。

部員の中には高校時代からゴルフをやってきた人もいますが、大学から始める人が多く、一からのスタートです。最初はボールを打つのもままならない状態ですが、各々目標を決め、平日は練習場、土日と祝日はゴルフ場に通り練習しています。

練習場は、JR神領駅付近にあるリバーデールゴルフクラブ、ゴルフ場は、名岐国際ゴルフ倶楽部で労働の対価に練習させていただいています。名岐国際ゴルフ倶楽部にお越しの際は、声をかけていただけるとうれしいです。

現在、名工大ゴルフ部は、中部学生ゴルフ連盟の3, 4部（ゴルフは1, 2部と3, 4部の二つしかない）に所属しています。1, 2部への昇格をめざしていますが、昇格は難しく大きな目標となっています。

そのために、まず、己の技術を上達させなければなりません、なかなか思い通りに行きません。一步一步、上達しているはずなのに、ゴルフは、昨日できたことが今日できないなんてこともよくありますが、これも自分の成長の過程だと信じて、来年の大会に向け日々精進しています。



2008年夏 合宿にて

4月	新歓コンパ
6月	六月定例会
8月	団体戦、新人戦、八月定例会
9月	夏合宿、三重大対抗戦
10月	十月定例会、幹部交代
12月	忘年会
3月	春合宿、追いコン

また、一年の最後に追い出しコンペを行い、卒業生を送り出しています。年2回、春と夏に3泊4日で行われる合宿では、体力勝負で、4日間で述べ6ラウンド以上をこなしています。特に夏合宿では炎天下の中、セルフ用キャディバックに2リットルペットボトルを入れて担ぐため、体力のない一年生にとっては厳しいものとなっています。最近では、練習場で僕たちを指導してくれるレッスンプロの桜井さんも合宿に招いています。掲載されている写真は、2008年の夏合宿の時の集合写真です。

三重大大学との交流戦もあり、三重大がお世話になっている中日カントリークラブで行ない、今年は名工大が勝ちました。

最後にOB会ですが、これは、OBのみで毎年開催しているそうですが、中西教授に伺ったところ、現在、連絡が滞っている方々もいるそうですので、連絡を取れるよう頑張っています。

昭和49年に繊維高分子工学科の仲間6人で同好会を立ち上げ、昭和50年からクラブに昇格して以来、数多くのOBを輩出してきたことは、感慨深いものがあります。ブルジョアの年寄りのスポーツだといわれていた時代に、それなら若いときから始めようと思い立った私たちは先見の明があったかもしれません。30年余りのゴルフ暦で培った技術はともかく、ゴルフを通じてであった多くの人々は私にとって大きな財産です。これからも頑張ってください。

名工大教授 顧問 中西英二 (W51)

学内ニュース

名工大、フランス工学留学フェア2008を開催

名古屋工業大学は12月3日、在日フランス大使館と協力して「フランス工学留学フェア2008」を開催した。これは本学の教職員や学生にフランスの工学分野における優良教育機関について広く紹介するとともに、学生交流及び研究者間交流の促進、学術交流協定締結の交渉等を図ることを目的として開催されたものである。

留学フェアの冒頭、山本国際交流センター長、在日フランス大使館大学交流担当官エリック・ドゥクルー氏、アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会所長ジョゼ＝マリー・コルテス氏が挨拶した。続いて、フランス政府留学局・日本支局より橋本妙子氏が「フランスの教育事情」について説明し、フランスより参加5校（INSA de Strasbourg、ESIGELEC、ENSEA、EFREI、Universite de Toulouse）によるプレゼンテーションが行われた。会場には学内外より多数の参加者が集まり、熱心にメモを取る学生の姿が見られた。

本学は今回参加大学のEFREIと協定関係にあり、学生短期派遣プログラムを実施するなど近年フランスとの交流を活発に実施してきている。EFREIには本学の情報工学科から毎年10名程度が短期留学し、花の都パリでの充実した留

学生生活を体験している。また、EFREIからも毎年2名程度の留学生を受け入れており、今後は、研究面での交流も展開しようとしている。また11月にフランスで、リモージュ大学・ENSCIとの共催で開催した国際学会には松井学長他約20数名の研究者、学生が参加し、研究面でもセラミックス分野における研究発表、活発な議論を交わすなど実績を積み上げている。

留学フェア後に行われたレセプションは、松井学長の挨拶で始まり、多くの日仏の大学関係者が参加し活発な意見交換がされるなど、今後の日仏交流のさらなる発展が期待される有意義な機会となった。

(事務局)



写真2. レセプションにて挨拶する松井学長



写真1. フランス工学留学フェアの様子



写真3. EFREIの講師陣と本学情報工学科の学生

名古屋工業大学附属図書館 学生デザインの書架をお披露目

名古屋工業大学附属図書館では、平成21年1月7日に学生がデザインをした新着図書用書架の除幕式を行った。書架は在学生を対象に行ったコンペの応募作品10点の中から最優秀賞に選ばれた工学部4年金澤潤君、工学研究科1年葛島隆之君のデザインを基に、田島記念大学図書館振興財団の助成によって制作したもの。コンペは「ふと立ち止まって本を手にしたくなる本棚」というテーマで行われ、二人の作品「本（×



写真1. 完成した書架

3) 棚 -ほんだな-」が最優秀賞に輝いた。

除幕式には、松井学長、高橋理事、水谷理事も参列し、松井学長が「学生が積極的にコンペに参加し、ユニークかつ機能的な本棚ができたことを嬉しく思う」との祝辞を述べた。また受賞者からも「自分の作品が採用され、今後の制作活動の励みになった。またこのような企画を開催してほしい。」との声があがり、大変好評であった。



写真2. 受賞者との記念撮影

松井学長が大野家のお墓をお参り

松井信行学長始め呉茂理事、水谷尚美理事、木下隆利副学長が、昨年11月27日に大野耐一氏とその御令室の良久氏が永眠されている大野家のお墓（刈谷市の長遠寺）をお参りし、御夫妻の御冥福をお祈りするとともに、本学に対する御支援にあらためて深く感謝申し上げます。

大野耐一氏は、本学卒業生でトヨタ生産方式の生みの親であり、御遺族から1億円の御寄附をいただき、大野耐一国際交流基金を設けて国際交流の推進に役立ててきました。また、一昨年永眠された良久氏の御遺産から昨年1億円を御寄附いただきました。大野耐一国際交流基金と昨年いただいた寄附金は、80周年記念学術振興基金、100周年記念募金などと合わせて、昨年4月に設置された名古屋工業大学基金の原資

として、学生への支援、学術研究振興の助成、社会貢献活動の支援、国際交流の推進などの事業を行うことになりました。

(事務局)



左から呉理事、木下副学長、松井学長、水谷理事

情報

ネットワーク

東京支部総会報告

11月13日（木）夕刻6時30分から平成20年度の東京支部総会・懇親会が例年どおり竹橋の「KKRホテル東京」で開催されました。濟木さん（D35）の司会で、小田支部長（E36）の開会の辞に続いて篠田理事長（M33）から「前半次理事長から会員増強、法人移行、呼称の問題などを引継いだ。直ぐに解決できることではないのでよろしくご協力をお願いしたい」と挨拶がありました。続いて二叔常務理事（K39）から「東洋経済10月18日号の大学ランキングで名工大は総合28位（因みに名大は34位）だが、07年度の対04年度経常収益（外部資金調達力）では国立大学中8位、また国公立大学中資金獲得力で4位、特許資産では10位にランクされている」という話がありました。平手総務担当（Es42）から会務報告、山田財務担当（Es46）から会計報告、小林さん（K25）から会計監査報告があり、M18卒で文字通り卒寿に近い現役弁護士・小関さんの音頭で乾杯しました。大学側から「例年出席されてる松井学長は文科省のヒアリングでどうしても席を空けられず残念ながら欠席となった」と報告がありました。

乾杯のあと久しぶりの歓談となり、近況報告や昔話に花が咲きました。愉快的時はすぐ過ぎて、元合唱団員が学歌を歌いました。締めは山田実さん（M23）の万歳三唱で来年の再会を誓いました。

以下は懇親会などのスナップ写真ですが段取りが悪くフラッシュを焚かずに撮ったため肝心の大勢の写真がボケています。被写体も周りの人たちに限定されたこともお許し下さい。二次会を丸の内署管内の屋台でやったクラスもあり、今池の土手焼きを思い出したそうです。「俺たちの頃は北海道から九州まで全国から集まったのに、この頃は七割が愛知県出身者だ」と

ぼやきながら三次会まで行った元気者もいたそうです。

当日5人（電気3、繊維高分子1、経営1）の方々が入会希望されました。誘い合っただけからも会員が増えていくようにしたいものです。

記：加藤勝英（E39）



九州支部総会報告

平成20年度の九州支部総会は、紅葉の便りが聞かれる11月15日（土）に、北九州市小倉駅に隣接するリーガロイヤルホテル小倉にて開催しました。

当日は来賓として、理事長 篠田陽史様（M33）をお迎えし、今年は福岡県内から16名が出席しました。以下、式次第に従って概要を報告いたします。

まず、出席者全員による記念撮影、宮内幹事による開会のことば、喜多村支部長の挨拶に続いて篠田理事長に来賓のご挨拶をお願いいたしました。その中で、名古屋工業会の動向や大学の近況についてのご説明をいただき、質問も出るなど有意義なお話を聞かせていただきました。

ついで、山口先輩（A35）の音頭による乾杯の後、九州支部での平成20年度活動計画を喜多村支部長より、また、平成19年～20年収支報告を永濱会計担当より報告したところ特に異議もなく、そのまま宴会に入りました。そして、自己紹介と近況報告の場では、それぞれのご活躍の様子が紹介され、一同その内容に感服しつつ傾聴いたしました。

今年の例会も2時間の予定をオーバーして大いに盛り上がりましたが、最後に学歌「東海の邦のほまれに」を斉唱し、輿石先輩（K32）の音頭のもと万歳三唱により、名古屋工業会の益々の発展と会員の健勝を祈念しつつ、来年の博多での再会を約して散会しました。

記：九州支部長 喜多村治雄（M40）



静岡支部テクノフォーラムin浜松の報告

名古屋工業会静岡支部は平成20年11月29日（土）、浜松市中区のザザシティ中央館のパレットで、第3回テクノフォーラムを開催しました。今回で3回目のテクノフォーラムは静岡県西部地区と東部地区とで交互に開催されています。昨年開催の東部地区からも大勢の参加があり、総勢40名のにぎやかな集いとなりました。最初に山之上支部長より開会のご挨拶をいただき、講演会に入り、西部地区で活躍されている本学OBの藤井義磨郎氏（浜松ホトニクス株：Es49）と鬼東博文氏（ヤマハ株：C54）の2人から貴重なお話を聞くことができました。今回の演題は、それぞれ「最新医療診断技術」（藤井氏）と「音と技術の世界」（鬼東氏）でした。健康や音楽については非常に参加者の関心が高い話題であったので、会場からは多くの質問が出され、熱心に講師の両氏と議論がなされました。参加した会員からもテクノフォーラムへの賛同の声が多く寄せられました。そして最後に全員で記念撮影を行いました。

テクノフォーラム終了後は、会場を地元酒造元の直営の地ビールレストランに移し、近況報告など懇親を深め合い、宴はたけなわとなりました。和やかに終始した懇親会の後、来年の秋に東部地区で開催される第4回テクノフォーラムでの再会を約し散会しました。

記：玉木利幸（C52）



第1回	佐古猛氏（静岡大学：D49） 「水と炭酸ガスのパワーで環境を守ろう」 高木郁生氏（天竜プレカット組合：A52） 「天竜の森今昔」～林業から森林バイオマスまで…循環型社会の形成の試み～
第2回	磯田雄三氏（キヤノン：M53） 「キヤノンLBPビジネスの紹介」 榊原 学氏（東海大学：F48） 「脳の老化予防」

大阪支部 秋季歴史探訪の会報告

11月29日(土)秋晴れの下、総勢21名(内2名は奥様)のご参加を頂き、奈良・今井町の入り口である近鉄・八木西口駅に集合いたしました。

今回は、今井町のボランティア・ガイドの方が、駅まで出迎えていただきました。中世の奈良の商業の中心であった今井町の成立と現在の町の様子、町の維持について説明をして頂きました。太平洋戦争の戦火や失火にも会わず、江戸中期の商家の町並みが残っているのは大変に珍しく、町内にも国・県・市の重要文化財に指定された家が多数あり、一般に公開されている家もあります。もちろん今も住居として使われ、現在人が住まわれている家が大半です。

文化財の保存と住み心地の頃合との兼ね合いの難しさ、維持・修理に市から費用が出ていると言っても、維持に費用が掛かり、人が住まなくなると途端に家は朽ち始め、何軒かは崩落寸前の家もありました。昼は全員ですし屋で食事をして、神武天皇陵、綏靖天皇陵を参拝し、檜原考古学研究所付属博物館をガイドの方の説明で見学いたしました。

特に圧巻は、背丈よりも大きい埴輪の実物展示であったり、藤ノ木古墳から出土し復元された国宝の金銅製の靴や装飾された太刀でした。展示品の99%は実物というお話に、古のご先祖様の物づくりのレベルの高さに驚かされました。見学の後、めったに登ることの無い大和三山の一つ畝傍山にミニ登山をした後、麓の檜原神宮に参拝し、来年の丑の大絵馬の前で記念写真を撮りました。最後に近くの久米の仙人伝説で有名な久米寺を拝観して、近鉄・檜原神宮駅で解散し帰途に着きました。途中、雨がパラパラとしだし、天候の崩れが心配されましたが、無事終了いたしました。今回の見学と拝観は、年を取られた方には、体力勝負の一日でした。

記：三木敏裕 (E48)



名晶会東京支部賀詞交換会報告

毎年恒例の名晶会東京支部の賀詞交換会が2月7日(土)午後1時から4時まで八重洲クラブで行われた。

本年は会員23名の参加が得られ、加藤(S28)さんのご発声で盛会の内に始まりました。本年は、当支部会員で現在名工大機械工学科教授をされている渡辺義見(S60)さんに「名工大の近況」について講演会をして頂きました。最近の建物などは多くの会員にとって興味深いものでした。渡辺教授の魅力ある研究紹介もあり、その結果、今後今回出席できなかった現役OBにも魅力ある活動として東京在住OB間の産学官連携になるような動きをしようという雰囲気も出始めました。名晶会東京支部のブログも準備されました。現状支部会員は名簿では218名でしたが、18名がこの一年に移動され200名になっております。東京・関東エリアに転入された方は須賀(S43)までご連絡ください。

須賀：電話 048-833-1376、

電子メール hsuga@jcom.home.ne.jp

名晶会ブログURL：<http://nitmetal.dtiblog.com>

記：S43須賀、S46阪井

出席者(敬称略)

S25小林、S28加藤、S29荒川、S30清水、
都丸、S31藤原、S32川本、菅野、田島、谷口、
辻、恒次、羽田野、S37村田、S38佐藤、竹内、
日比野、S43須賀、杉山、S44本間、S46阪井、
S57三尾、S60渡辺
S43井上(経友会より参加)



卒業以来、半世紀を前に母校訪問

卒業以来あと数年で半世紀を迎えて大々的に集まるのを前に、かつて萱場町の教養部内にあった恒和寮北寮に在寮した有志8名が集まり、懐かしの母校を訪問した。前夜ホテルに1泊した一行は、夜の更けるのを忘れて、伊勢湾台風時には畳を上げて窓を押さえたことや寮の食堂の屋根が飛んで自炊を余儀なくされたこと、また時は安保騒動の真最中で名駅裏の中村署の前に夜を徹して座り込んだ話とか、この時期に在寮した者だけが知る思い出話に花が咲いた。

さて翌日はいよいよ母校訪問である。鶴舞公園のたたずまいは以前と変わらぬものの、母校の正面は広々と開放的になり、当時の建物はすっかり立派に立て替えられ、古墳を見つけてやっと当時の校舎の位置を想像するのみであった。

道ひとつを隔てて、教養部も設置され、当時のようにスクールバスで行き来する必要もなくなっていた。

また学内には女子学生の姿も多く見られ、当時建築科に紅一点として一人だけ在学していたのとは大違いである。

しばらく学内探訪の後、竜ヶ池に面した名古屋工業会館にお邪魔して、明るいサロンでお茶をいただきながら、加地事務長から大学の現況を伺ったり、「ごきそ」のバックナンバーを紐解いたりして、すっかり学生時代に逆戻りした感があった。

今回の訪問を機に、かつての在寮生の動向も把握できたので、数年先には多くのメンバーで再訪できたらと思ったことであった。

記：藤原康宏（E36）



第196回名工会 東京支部ゴルフ大会結果報告

第196回名工会東京支部ゴルフ大会は平成20年9月29日(月)、東京都の若洲ゴルフリンクスにて開催され、19名の参加でした。小雨から次第に雨脚が強くなり午後には雨中でのゴルフになりましたが、86歳の小関健二様(M18)、83歳の金子忠良様(C19)も含め、全員元気にホールアウトされました。優勝はベストグロス82のC34 田北元良様、準優勝はM38西出輝幸様、3位はC24杉山方克様がシニア賞と合わせて獲得です。表彰式ではM18 小関健二様より賞品が手渡されました。次回は11月27日(木)大厚木カントリークラブにて開催です。

実行委員 河野正武(M42)、藤田正浩(E33)



平成20年度 三河支部懇親ゴルフコンペ報告

秋の恒例、三河支部懇親ゴルフコンペを平成20年10月25日(土)、愛知カントリークラブで開催しました。前日の雨も上がり、まずまずのコンディションとなりました。始球式では森下支部長が華麗にカラーボールを飛ばし、31名のなごやかなプレーで旧交を深めました。M52中村敏明さんが優勝、ベストグロス賞はスコア88で最年長E29都筑登さんが獲得です。支部長から各賞が贈呈されました。続いて、平成20年度三河支部ミニ総会を開催、名古屋工業会の活動実績報告、会員増強の支援要請を行いました。今後の三河支部の諸活動への参加と支援をお願いして閉会しました。

記：松坂勝広(D61)



第77回名工大ごきそ会

名工大ごきそ会は、昭和63年9月の第1回から今回で77回目となり、歴史を感じさせる会となりました。今回は16名の出席があり、東海地区きっての名門コースであります三好CCでの開催となりました。前回と打って変わり穏やかな日となり、冬のゴルフとしては最高の中でプレーすることが出来ました。天気とは別に、屈指な難コースに各プレーヤーは各所で悩まされ、特に冬場特有のグリーンには悪戦苦闘されている風景が見られました。

その中で今回の優勝者は、安田秀樹氏(D28)がネット78で始めて優勝されました。ベストグロス賞は坂本修造氏(A35)のグロス86で、久しぶりに獲得されました。

プレー後懇親会を催し、和やかな中、表彰式を行い、優勝者及びブービーの方々の愉快的なスピーチを聞きながら、来年度は3月に南山CCで開催予定をお願いをし、閉会いたしました。

又、新しく新入会員として前回よりご出席されています篠田陽史氏(M33)を紙面をかりてご報告させていただきます。

記：柴田 作(A42)

第197回 名工会東京支部ゴルフ大会報告

第197回ゴルフ大会は平成20年11月27日に大厚木CCにおいて、19名の参加で開催されました。

当日は生憎朝から冷たい雨となり、起伏の多い難コースに皆様だいぶ苦勞しましたが、結果は終始安定したスコアで纏めた本間吉夫様(E18)がネット76で優勝、竹林義之様(D39)がネット73ながら、初参加のため規定により準優勝、横田章宏様(D33)がネット76で第3位となりました。

プレー終了後の懇親会では、小関健二様(M18)から入賞者に夫々賞品が渡され、入賞の方々のユーモア溢れるスピーチ等で賑やかな談笑のうちに閉会となりました。次回は3月27日に本厚木CCで開催の予定です。
記：田北元良(C34)



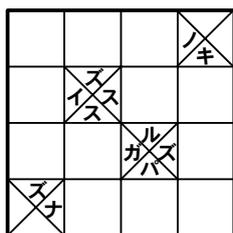
ごきそでパズル

ちょっと一息にパズルコーナーを始めました。

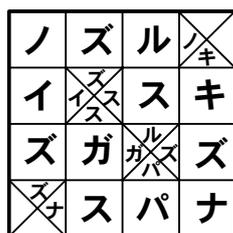
下のマス目にカタカナ1文字を入れて、縦横ともに言葉を作ってください。

ただし、 \times のマス目に書かれている文字がその方向のことばの中に隠れています。

(例題)

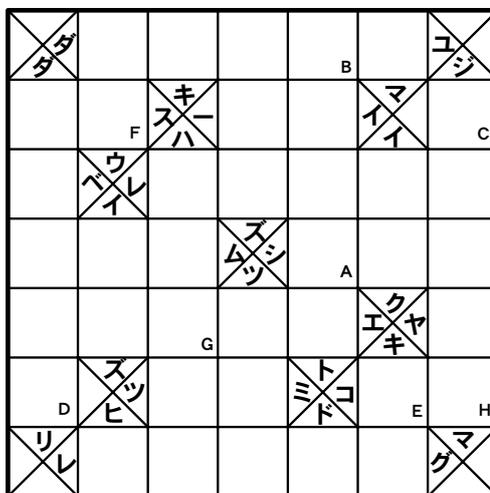


(答)



問題「どこかな？」

例題の要領で下のますを埋めてみてください。上手く埋まると、A～Hにどこかお馴染みの場所が現われます。



解答は次号に掲載します。

パズル：稲葉直貴 (EJ⑬) 作

平成21年度 尾張支部総会のお知らせ

次の通り開催します。会員各位のご参加をお待ちしています。

1. 日 時：平成21年4月11日（土）14時～18時30分
2. 場 所：稲沢市民会館 小ホール（稲沢市正明寺3-114 電話0587-24-5111）
3. スケジュール：①支部総会 14:00～14:35
②特別講演 14:40～15:40
『不況下で知恵を生かした健康管理への挑戦：2009年』
講師：有限会社 MACメディカルアソシエイトカンパニー 薬学博士 後藤 義明 氏
【注】昨年4月の特別講演が好評でした。その続きを話していただきます。
③ミニコンサート 15:45～16:45
ソプラノ・村瀬啓子さん、フルート・上田花奈さん、ピアノ・石山英明氏。
【曲目】アヴェマリア、からたちの花、私のお父様（プッチーニ）他
④懇親会 17:00～18:30
4. 参加費：正会員 3,000円 会員（会費未納者）4,000円 家族（懇親会参加）2,000円
ただし、特別講演およびミニコンサートのみご参加の場合は無料です。
5. 申込方法：正会員の皆様には、平成21年2月に文書で案内しました。
案内未着の場合は次の所へお問合せください。
〒492-8008 稲沢市赤池町2306 名古屋工業会尾張支部 玉田 欽也（W32）
電話：0587-32-0829 ファックス：0587-34-5122

「黄金の町」といわれた堺の市街を文化と産業の面から探訪（ガイドの説明付き）

大阪支部 平成21年春季歴史探訪の会よりのお知らせ

（社）名古屋工業会大阪支 支部長 河辺 彰（K40）
事業委員会 委員長 山本泰三（M39）
集いの会担当 藤原康宏（E36）田中禎一（E36）

会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。今回は、中世の奈良の商業のシンボルであった橿原・今井町の見学と古代大和の文物展示で有名な橿原考古学研究所附属博物館を訪ねる旅でしたが、如何でしたでしょうか。さて今回は、中世の商業都市として名を馳せた「堺」の町並みを「堺文化財特別公開」期間にあわせて平素は見られない社寺の拝観や、堺独自の産業面から「堺刃物」や「自転車」ミュージアムなどを全行程ガイド付で探訪します。ぜひとも奮ってご参加ください。

1. 日 時：平成21年5月24日 日曜日 午前10時～午後5時ごろまで
 2. 集合場所・時間：南海高野線「堺東」駅 改札口 午前10時
 3. 行 表：（歩行行程約7km）本行程は、徒歩に成ります。（雨天決行）
午前10時 南海高野線「堺東」駅改札口集合……堺市役所21階展望ロビー……妙国寺……堺HAMONOミュージアム……菅原神社……開口神社……千利休屋敷跡……南宗寺……大仙公園（自転車博物館・堺市博物館）……仁徳天皇陵……南海高野線・JR阪和線「三国ヶ丘」駅にて午後5時ごろ解散予定
*後日、参加者には詳しい内容をメールまたはFAXにて送付いたします。
 4. 参加費用：無料 但し交通費、拝観料、昼食費等は各自負担下さい。
 5. 参加対象・人員：名古屋工業会会員とご家族、ご友人 30名
 6. 申し込み締め切り：4月30日（木）
 7. 幹 事：山本 泰三（M39） 田中 禎一（E36） 藤原 康宏（E36）
 8. 申し込み先：藤原 康宏（E36） E-mail：y-fuji@kcn.ne.jp
- 「尚、ご出欠のご返事は出席者のみとさせて頂き、ご欠席の方についてはご返事を頂かなくても結構です。」
- ① 氏名： ② 勤務先（OBの場合も記載ください）： ③ 住所：
 - ④ 学科・卒業年次： ⑤ TEL： ⑥ FAX： ⑦ E-mail：

平成21年度 東京支部エクスカージョン案内

恒例のエクスカージョンの計画を立てましたので奮ってご参加願います。

今回は下町情緒豊かな帝釈天、川魚料理、花菖蒲を楽しみたいと思います。

午前中は、寅さんで有名な葛飾柴又の帝釈天、山本亭、寅さん記念館、矢切の渡しを見学し、川魚料理で有名な川甚で昼食後、金町に移動し、しばられ地蔵を通過して、水元公園の花菖蒲田、ポプラ並木、メタセコイアの森などを散策します。

水元公園は都内唯一の水郷の景観をもった広大な公園であり、一度は訪れる価値があると思います。花菖蒲田も都内最大だそうです。

1. 日 時：平成21年6月6日（土曜日）雨天決行
2. 集合場所：京成金町線「柴又」駅、改札出たところのフーテンの寅像前
3. 集合時間：午前9時50分
4. 募集人員：上限なし
5. 参加会費：4,000円
6. 申込み方法：（個別案内は致しません。）
 - ・幹事に、電話、FAXなどでお申込み下さい。
 - ・申込み時に、卒業年次、氏名、連絡先、電話番号をお知らせ願います。
7. 申込み先：

C42	坂井利充	Tel 03-3747-0252	携帯 090-1438-0422
D44	岡本利郎	Tel 03-3226-4701	FAX 03-5360-6856
C47	小林 保	Tel 03-5835-1711	FAX 03-5835-1712
A61	工藤利昭	Tel 03-6229-7299	FAX 03-5561-2327

編集後記

名古屋工業大学に入学されました新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。今回の「ごきそ」では、名古屋工業会の先輩諸氏から新入生の皆さんへのメッセージを特集しました。こんなにも多方面から皆さんを見守っておられる先輩がおられることに驚かれたことと思います。メッセージによって新入生の皆さんだけでな

く、「ごきそ」を手にとられた会員のそれぞれが名工大に入学した時の期待と不安を思い出されたことでしょう。

新人がいち早く名工大の一員として、そして名古屋工業会の一員として活躍いただくために「ごきそ」がお役に立てば幸いです。

(犬塚)

会誌「ごきそ」のバックナンバーは、名古屋工業会のホームページ
<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>でご覧いただけます。

広報委員会

委員長

北村 正 (Es48)

委員 [○：幹事]

○犬塚 信博 (J62)	糸魚川文広 (M61)	横山 淳一 (Fb⑥)	森川 民雄 (W45)
○大園 忠親 (I⑦)	小坂 卓 (EJ⑥)	山口 啓 (C49)	若尾 尚史 (D⑥)
森 聡	山本 勝宏 (ZW⑥)	宇佐美智伯 (SU⑥)	道家 清正 (Y30)
秀島 栄三	本多 沢雄 (ZY⑥)	平井 稔雄 (M⑤)	飯田 雅 (K46)
北川 啓介 (A⑧)	鵜飼 裕之 (F52)	廣瀬 光利 (E50)	杉江 紘 (F院44)

センサとレーザマーカの総合カンパニー



取締役社長 吉村 元 (Es51)

各種FA用センサ (光電センサ・圧力センサ・近接センサ・変位センサなど)、安全機器 (セーフティライトカーテン・セーフティドアスイッチなど)、静電気対策機器、レーザマーカ、マイクロSCOPE、工業用内視鏡など

<http://sunx.jp/>

SUNX株式会社

東証一部・名証一部 上場
愛知県春日井市 電話 0568-33-7211

建設 不動産コンサルティング 調査 設計 企画



MAEDA

株式会社 前田組

代表取締役 前田 靖

〒466-0031

名古屋市昭和区紅梅町3-3 円昭ビル2F TEL052-852-2225

<http://www.enshow.com/MG/>

株式会社 円昭

代表取締役 前田由紀夫

有限会社 円昭建築設計事務所

所長 前田 知次



ENSHOW

〒466-0031

名古屋市昭和区紅梅町3-4-2 TEL052-841-2701

<http://www.enshow.com>

(株)ブライダルは
名古屋工業大学会員の皆様の
「結婚」を応援します。

31年の実績
(一橋大コースetc)



左のQRコードにて携帯サイトに
簡単にアクセスできます。
(一部対応しない機種がございます。)

名古屋工業大コース

これをご覧になったとおっしゃってください

会員サポート費 **50% OFF**

ブライダルコース ¥220,500 ▶ ¥189,000 etc.

エクセレントコース ¥378,000 ▶ ¥330,750 etc.

●ミドル・シニアの方々のプランにも特典がございます。

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

●成婚率は業界トップクラス。

●入会審査有り

●都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開。

●お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化問題にも貢献。

株式会社 **ブライダル** (お問い合わせ 月曜定休) ☎0120-415-412
<http://www.bridal-vip.co.jp>

名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

特許業務法人
英知国際特許事務所

EI CHI Patent & Trademark Corp.

所長 弁理士 岩崎 孝治

— 知財の総合コンサルタント —



東京本部 〒112-0011 東京都文京区千石 4-45-13
TEL : 03-3946-0531(代) FAX : 03-3946-4340

神奈川支部 〒225-0021 神奈川県横浜市青葉区すすき野 1-4-1-103
TEL : 045-902-2004 FAX : 045-902-2004

北海道支部 〒078-8802 北海道旭川市緑が丘東二条 4-11-12
TEL : 0166-65-2080 FAX : 0166-65-2080

浜松支部 〒430-0806 静岡県浜松市中区木戸町 5-11
TEL : 053-461-5662 FAX : 053-460-6027

<http://www.eichi-patent.jp>

本社 ☎ 044(222)0244

川崎営業所 ☎ 044(222)0241

名古屋営業所 ☎ 052(361)8305

環境プラント、エンジニアリング

AGC グループ 旭硝子セラミックス特約店



日本窯爐株式会社

代表取締役 飯田 重行 D18

(本社) 川崎市川崎区榎町7番2号 〒210-0002

“仕事を通じて世界に喜びと感謝の輪を広げる”

高級耐火物、黒鉛坩堝、ファインセラミックス、景観材
ニューカーボン材、環境機能材、金属マトリックス複合材

創造性を追求する

株式会社 **TYK**

代表取締役会長 牛込 進 (Y33)

本社 ☎100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2
☎ 03-3201-0821 FAX 03-3213-3566

本部 ☎507-0818 岐阜県多治見市大畑町3-1
☎ 0572-22-8151 FAX 0572-22-0706